

42850

教科書文庫

4
290
41-1904
2500300 164

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

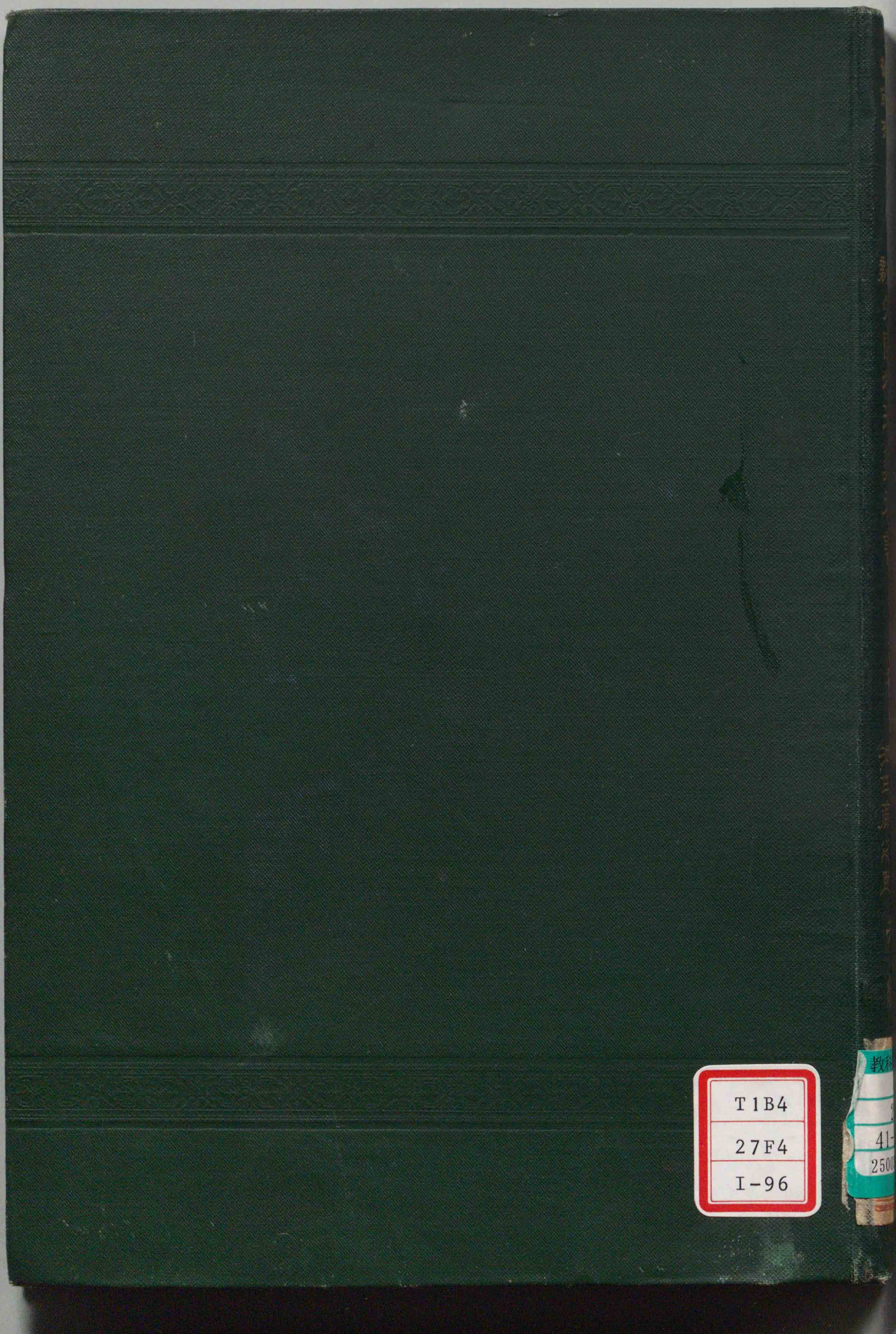
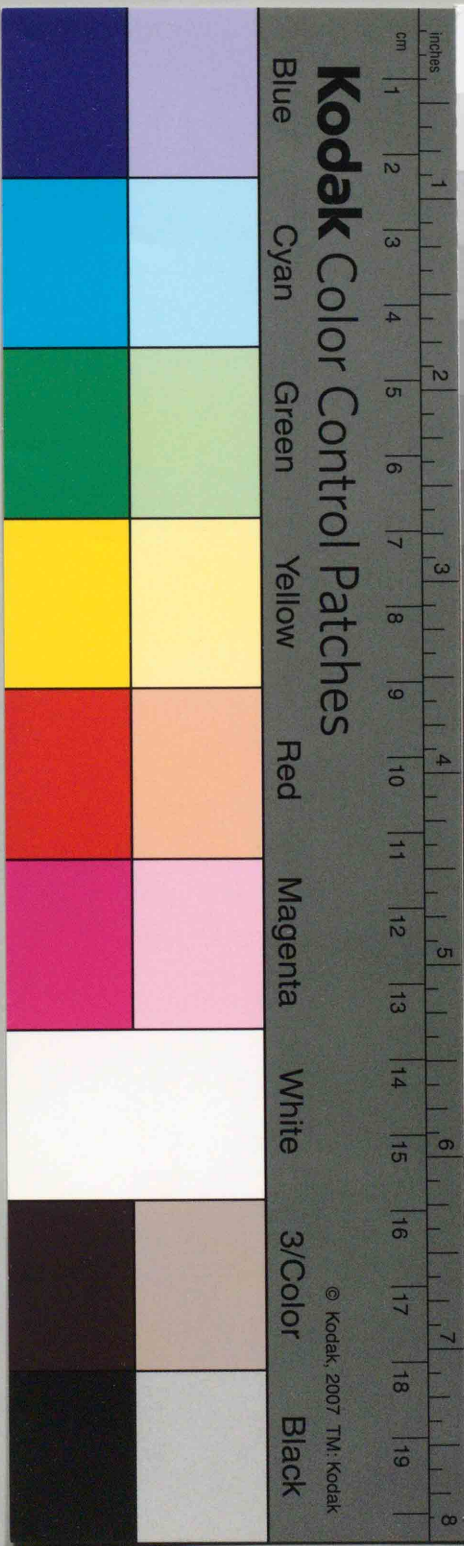


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



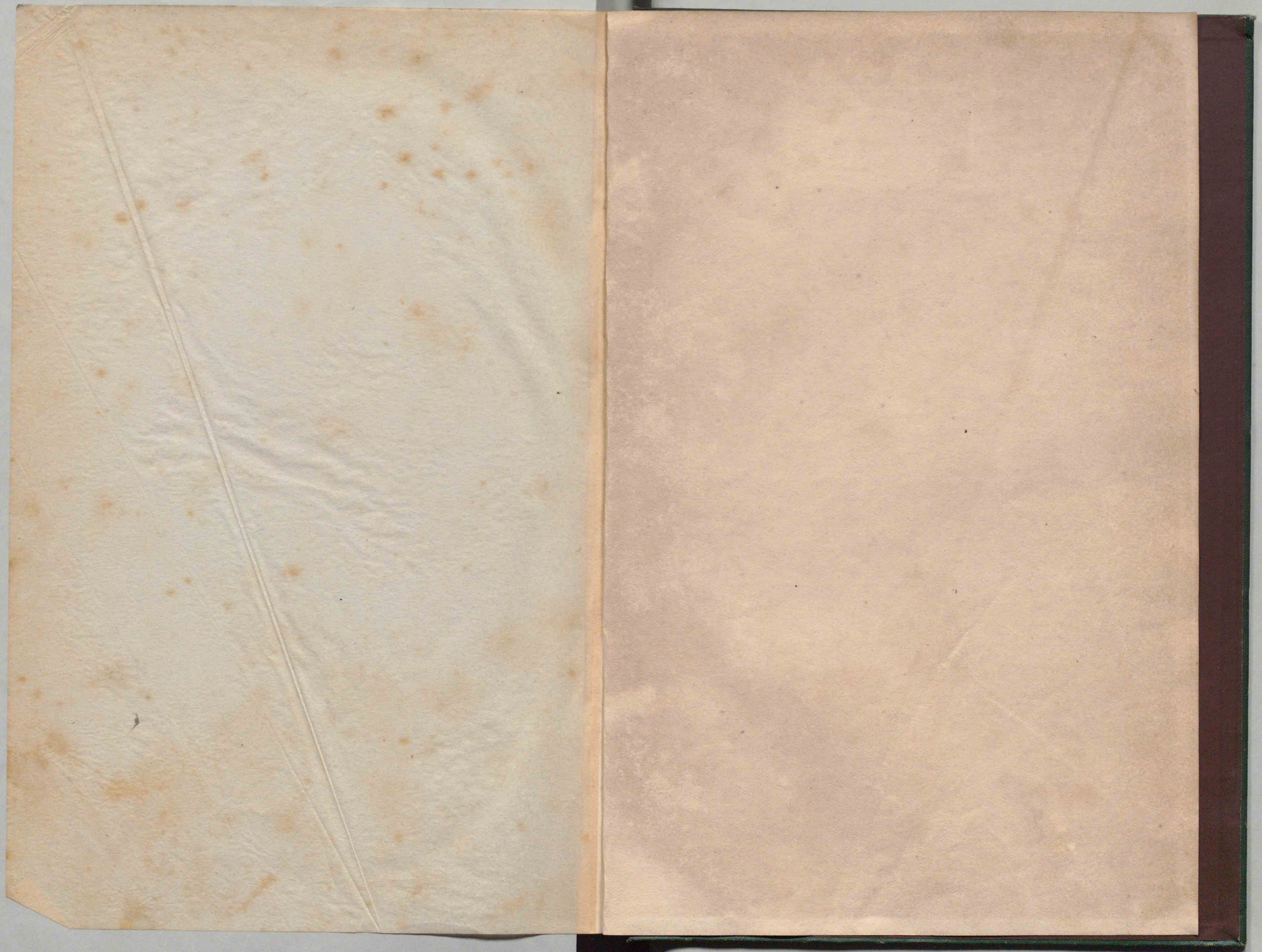
T1B4
27F4
I-96

教科  
41-  
2500



教科書文庫  
4  
290  
41-1904  
2500300164

記号	地紀
番号	527
一部/册数	1



明治三十三年三月十五日  
文部省檢定  
改訂版  
正

理學士 岩崎重三  
池田鹿之助 共編

最新外國地理教科書

東京 内田老鶴圃



凡例

一 本書は、中學校及びこれと同等なる諸學校の教科書にあてんがために、編纂したるものにして、その項目の大體は、明治三十五年二月六日、文部省訓令第三號の中學校教授細目によりたり。

一 地名及び人名の稱へ方、及び書き方は、明治三十五年十一月十五日、官報附録の外國地名及び人名取調表によりたれども、支那本部及び朝鮮の地名は、舊來の襲用せる書き方に従ひたり。

一 釐頭に細字を以て註記したるものは、本文に於て詳述する餘裕なきを補はんがためにして、教師はこれによりて説話の餘地を得、生徒はこれによりて記憶を惹起するの便宜を得べしと思へる、編者が用意にいでたるなり。

一 本文の右傍には、處々に——を劃せり、これまた、生徒の記憶に便

広島大学図書

2500300164



- 一 せんがための編者が特別の注意に他ならず。
- 一 各國の幅員は、凡て我が里法によりたり、もし、これをイギリスの哩法に換算せんとせば、我が方里に整數六を乗せば、その概略を知悉するを得ん。
- 一 貨幣及び度量衡は、大概我が國のものを以て顯はしたれども、また各國のを、そのまま襲用したるもあり、もし、彼我を對照せんとならば、左の用例に従ふべし。
- 一 哩は凡そ十四町四十五間
- 一 海里は凡そ十六町五十八間
- 一 メートルは三尺三寸
- 一 キロメートルは凡そ九町十間
- 一 ミリメートルは凡そ三厘三毛

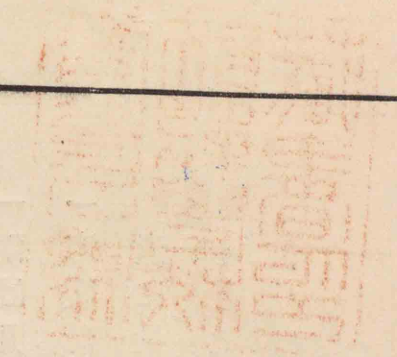
- 一 清里は凡そ五町六間
  - 一 韓里は凡そ三町十二間
  - 一 噸は凡そ二百七十貫匁
  - 一 封度は凡そ百二十匁
  - 一 ガルロンは凡そ二升五合
  - 一 弗は凡そ金貳圓
  - 一 兩は凡そ金一圓十五錢
  - 一 寒暖計は、學術上の通用として、攝氏によるを可とすれども、普通に通に世人の用ふるは華氏なるを以て、本書もまたこれを用ふ、もし、これを攝氏のに改算せんとならば、左の法によるべし。
- 但 C は攝氏、F は華氏なることを示す。

$$C = \frac{5}{9}(F - 32)$$

凡例

編者しるす

四



Faint vertical text impressions on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

最新外國地理教科書上卷目次

アジア

總論

地方誌

(一)朝鮮

(二)支那

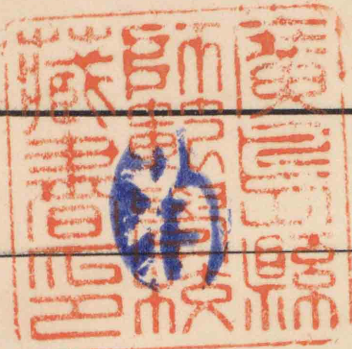
(三)アジア、ロシア

シベリア、中央アジア  
カフカズ

(四)アジア、トルコ(附サモス島)

(五)アラビア(附オマーン王國)

(六)イラン地方



10643



目次

一頁 一頁 一四頁 一四頁 二九頁 六五頁 七七頁 八三頁 八五頁

ベルシア・アフガニスタン

ベルチスタン

(七) インド (附ネパール・ブータン)

(八) インド支那半島

バルマ海峽植民地・シム

フランス領インド支那

(九) マライ群島

スマトラ島・ジャバ島・ボルネオ島

スルバネラ島・フィリピン諸島・セレベス島

チモール島・モルッカ諸島

### 大洋洲

(一) オーストラリア聯邦

(二) ポリネシア

八九頁

九〇頁

九九頁

一一一頁

一一一頁

一一〇頁

一一一頁

一一一頁

### メラネシア群島

バブア島・ビスマルク諸島・ソロモン諸島

ニューヘブリディッド諸島・新カレドニア

ドニア諸島・ロア・ヨート諸島・フィジー諸島

諸島

### ミクロネシア群島

ジルベルト諸島・マルシャル諸島・カロリナ諸島

マリアナ諸島

### ポリネシア本部群島

トンガ諸島・サモア諸島・ツンガトプア諸島

ニュージーランド

植民地

一三三頁

一三六頁

一三八頁

### 最新外國地理教科書上卷目次終



最新外國地理教科書 上卷

理學士 岩崎重三  
池田鹿之助 共編

アジア

總論

位置 アジア大陸は、東半球の東北部に位す。北は北極洋に洗はれ、東は大平洋に臨み、南はインド洋に面し、西はウラル山脈、カスピ海、黒海、地中海等によりてヨーロッパと界を交へ、西南隅は、スエズ地頸、紅海によりてアフリカに連なる。

1 亞細亞

2 裏海

アジア 位置

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the title and author information.)

全土の面積二百八十六萬方里あり。  
**區劃** アジアには、日本、朝鮮、支那、アフガニスタン、ロシア、中央アジア、トルコ、アラビア、イラン地方、インド、支那半島、マライ群島等の地域ありて、アジア、ロシアには、シベリア、中央アジア、カフカズ、イラン地方には、ベルシア、アフガニスタン、ペルチスタン、インド支那半島には、バルマ海峽植民地、シム、フランス領インド支那等の諸部あり。  
 本土の大部は外國の領土、もしくは保護地にして、日本、朝鮮、支那、シム、ヘルシアなどが、獨立の國體を保てる外、ネパール、ブータン、アフガニスタン、及びオマーンの各獨立部あるに過ぎず、その中立憲の政治を行へるは、獨り日本のみにして、他は、國勢の盛んなるものなし。

**地勢** 海岸は、東部南部に於て著しく屈曲し、ベーリング海峽より、マラカ海峽に至る間には、アレウト諸島、カムチツカ半島、カラフト島、日本群島、朝鮮半島、及びマライ群島ありて、ベーリング海、オホーツク海、日本海、黄海、東海、支那海等と、大平洋との水を限り、マラカ海峽よりスエズ地頸に至る間には、ベンガル灣、アラビア海、ヘルシア灣、紅海等の海灣、北方に彎入して、インド支那半島、デカン半島、アラビア半島を分ち、インド支那半島の南部、また突出して、マライ半島をなす。されど、北部は、オプ、イニセイの二灣と、タイミル半島の北方に突出せる外、概ね出入に乏しく、西部また、小アジア半島突出して、マルモラ海と、エーゲ海との沿岸、處々に小出入をなせる外、大抵屈曲少なきを以て、本大陸の海岸線は、その延長僅

東岬（二）もとの

に一萬五千里に充たず。ベールリング海峡に突出せるデスネ  
 フ岬は、小アジア半島のババ岬と共に、本大陸の東西兩端に  
 して、タイミル半島のチェリックス岬は、マライ半島のロマニ  
 ア岬と共に、本大陸の南北兩端たり。  
 アジアの地圖をのべて、土地の高低を見るに、全土の中央よ  
 り、稍西に偏せる處に、バミル臺地あり、この地方は、地高一萬  
 尺より一萬五千尺に達する、地球上第一の高地にして、地理  
 學者の、いはゆる「世界の屋根」と呼べる處とす。本土の山系  
 は、皆此臺地を中心として四方に分岐し、とりわけ、東北に走  
 れる天山山脈・アルタイ山脈・ヤプロノイ山脈よりスタノボ  
 イ山脈につづきて、ベールリング海峡に終る一帯の諸山脈と、  
 西に亘れる、ヒンツークシ山脈より、エルブールズ山脈につ

づき、カスピ海の南岸に沿ひて、猶西北に、ボスボロス海峡に  
 達せる連脈とは、地勢上、全土を自然に高地・低地の二帯に分  
 割せり、即ち

（一）低地帯はシベリア・中央アジアの地域を占め、處々に山岳  
 を充たせども、カスピ海・アラル海・バイカル湖・バルハシ湖等  
 をたたへ、地大體、北に傾きて低野をなし、カスピ海より、アラ  
 ル海・バルハシ湖に至る一帯の低原の如きは、支那の西北部  
 なる砂漠性高原と共に、もとは、オア河筋を通じて、北極洋と  
 地中海とを連結せし、内海の遺跡なりと稱せらる。

（二）高地帯は、連脈以南の地區にして、處々に平原・窪地等を混  
 ふれども、バミル臺地より分るる、ヒマラヤ山脈は、北なる崑  
 崙山脈と共に、西藏高原を抱き、崑崙山脈は、陰山・興安等の諸



峰ガネジンチンカ

山脈につづき、アルタ  
 イ山脈の一派と相應  
 じて支那の西北部の  
 砂漠性高原を擁し、バ  
 ミル臺地より南に分  
 岐せるスレイマン山  
 脈は、西なる諸山脈と  
 共に、イラン高原を包  
 み、又エルブールズ山  
 脈の亘れる處に、アル  
 メニア高原あり、更に  
 西に、アナトリア高原

(ニ) エベ  
 スト大佐  
 の始め  
 の測定  
 になし  
 ちせむ

あり、南に砂漠性なるアラビアの高原あり、インドの南部、ま  
 たデカン高原をなせり。ヒマラヤ山脈は、世界有数の大山  
 脈にして、そのガウリサンカル峰、即ちエベレスト峰は、世界  
 第一の高峯にして、二萬九千尺に聳え、カンチンジンガ峰ま  
 た二萬八千尺以上に達せり。ヒマラヤ山脈の南に、ヒマ  
 本土は、五大陸中第一の大陸なるを以て他の大陸と較ぶれ  
 ば、長江大河甚だ多く、その水系は、山脈の趨勢により、北・東・南  
 の三方に分たれ、(一)イニセイ・レナ・オプ等の諸大河は、北極洋  
 に流れ、(二)アムル河・黄河・揚子江・廣東河・メコン河・メナム河等  
 は、大平洋に注ぎ、(三)サルウィン・イラワヂ・ブラマプトラ・ガンガ  
 インドス等の大河は、インド洋に朝す。  
 本土の河流は、その流域甚だ廣く、殊に揚子江・イニセイ河・レ

ナ河・アムル河・オホ河・黄河は皆流程千里以上に達す。されど、楊子江を除くの外は、大抵舟運の便少なく、イニセイ・レナ・オブ・アムルの四大河は、水層深く、流勢緩く、アムル河の如きは、江口より九百里の間、汽船の航行あれども、氷期の永きにより、夏期僅にシベリアの交通を助くるに過ぎず。黄河の如きも、その勾配急なるが上に、流路は黄土層地方を通過せるを以て、夥しく土沙を流し、河底或は附近の地よりも高き處ありて、漕運を利せず。西部は地形の狭小なると、山脈その脊梁をなせるとにより、北に流るるアム河・シル河、南に注ぐチギリス河・エウフラト河の外、或は内地の湖沼に排水し、或は砂原のうち、その流路を失ひ、長大なる水系をなせるもの少なし。

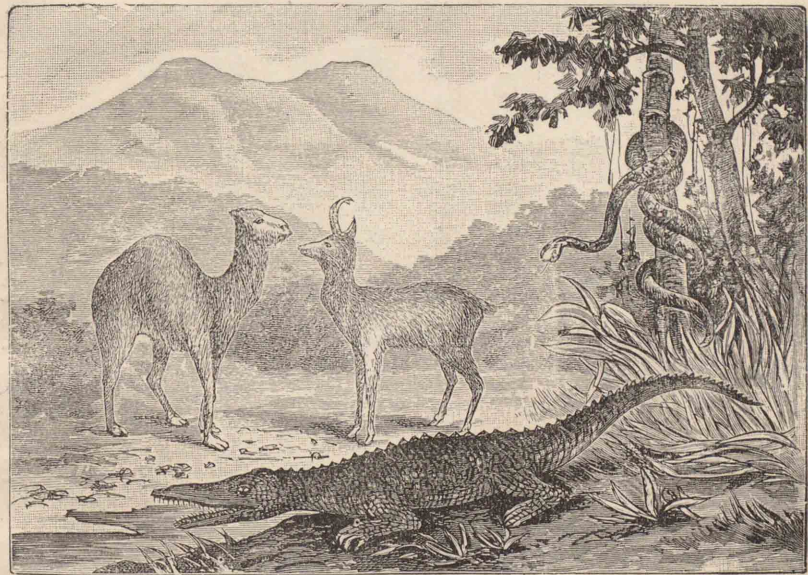
## 氣候

アジアは、北緯四十度の線、殆ど中央を横ぎり、南北兩部は、寒・熱二帯の地に跨るを以て、氣候は寒・溫・熱の三帯を有し、シベリアの北部の如きは、東部にて北緯五十六度、西部にて六十三度以北の地は、一面の凍土帯に屬し、夏期には一二尺の表面、解けて沼澤に變ずれども、その他は、常に地下數十尺の深さまで氷結し、ヤナ河畔のベルホヤンスクの如きは、夏期には、華氏の寒暖計百二度に昇る事あるに反し、冬期には、同じく氷點下百十七度に降り、一年の平均溫度は同じく氷點下三十度にして、世界最寒の地と稱せらる。イラン高原・アラビア、及びアジア、トルコの一部は、土地高きが上に、沿岸山脈によりて包まると、南西にアフリカを控ふるとにより、海風を受くることなく、從ひて、降雨少なく、空氣常に乾燥

して、寒暑の差劇しく、オマーン地方の如きは、世界最熱の地と稱せらる。またインド・インド支那及び支那の東部地方は、海洋の影響を受け、降雨豊かなるにより、土地濕潤に失し、インドのアサム地方の如きは、雨量の多きこと世界に冠たり。支那の高原地方は、地域海に遠く、且つ山脈四方を圍めるにより、空氣は常に乾燥して、朝露だも生ぜざる處あり。

**天産物** 本土には、天産物甚だ多く、**鑛物**に附ては、採掘少量なれども、**金**・**銀**はシベリア・支那・日本・インド・パルマに多く、**鐵**・**石炭**は支那・インド・日本・ボルネオ島より産し、又日本の銅・マライ半島の錫・インドの諸寶石皆名高く、石油はカフカズ地方・スマトラ・ジャバ等より多量に産出す。**動植物**につきては、その種類の夥しきこと、實に世界第一にして、穀類は北緯六

十度以南の地、まで栽培に適し、殊に日本・支那・インド・インド支那等は、米の本場として知られ、朝鮮・支那の北部には、多く高粱・粟を産す。茶は日本・支那を主とすれども、インドもまた、近年世界の市場に注目せらるるに至れり。その他、綿・藍・鴉片・甘蔗・麻類はまたインドの特産物として知られ、フィリピン諸島の煙草、アラビアの珈琲、マライ半島・スバイス島の香料ともに著名なり。桑樹の栽培は、日本・支那に適せるにより、この二國の蠶業は宇内に聞ゆ。林産は、南部の溫暖地方に産するチーク樹・紫檀・烏木・椰子・檳榔樹・護謨樹等、いづれも世に知らる。動物は、獅子・虎・象・犀より鱷・魚・蛇・蝮を産し、馬・駱駝・羚羊は、本土の西南部より支那の西北部にかけて飼養せられ、馴鹿はシベリアに多く、支那の北部よりシベリアにか



駝 駱 羊 羚 魚 鱷

けては、貂、白狐、白熊等の  
特産あり。

**住民** アジアの總人口

は、凡そ八億五千萬あり  
て、その密度は、一方里に  
つき、平均三百人許に當  
り、從ひて、人口の分布  
は著しく疎密の差あり  
て、支那は總體の人口四  
億以上、インドまた約三  
億を有せるを以て、他の  
諸國は、人口極めて稀少

なる割合となれり。本土にて、人口の最も稠密なるは日本  
にして、その稀少なるはシベリアなり。

本土に分布する人種を分ちて、蒙古人種、カウカシア人種、マ  
ライ人種の三種とす。そのうち、蒙古人種は、總人口の十分  
の七を占め、日本、朝鮮、支那の全部、インド支那、アジア、トルコ、  
中央アジアの大部、及びシベリアの土人等これに屬す。イ  
ンド、イラン地方、アラビア、カフカズの大部、及びシベリアの  
移住民は主にカウカシア人種、その餘はマライ人種にして、  
マライ半島、マライ群島の大部に分れ住す。

本土に流布する主なる宗教を、インド教、佛教、ムハンマド教等  
とす。インド教は、インドの住民多くこれを信じ、日本、支那、  
朝鮮、インド支那、セイロン島、ネパール、アータンの民は、主に

佛教に歸依し、本土の西部・中部・イラン地方・マライ半島・マライ群島の住民は、大抵ムハマド教を奉ぜり。キリスト教は、從來勢力甚だ微弱なりしが、今は、インド・カフカズ・アジア、トルコ・シベリア等に多數の信者を有せり。

### 地方誌

#### (一)朝鮮

朝鮮は、國號を大韓といふ。アジアの東部より海中に突出して、黄海と日本海とを兩分し、北は支那、及びシベリアに接し、東は日本海に臨み、南は朝鮮海峽を距てて我が國に對し、西は黄海に瀕す。全土の面積我が國の本州に均し。

域内は、もと京畿道・忠清道・慶尙道・全羅道・江原道・黄海道・平安道・咸鏡道の八道なりしが、今は、忠清・慶尙・全羅・平安・咸鏡を各南北に分ち、これに他の三道を加へて、十三道となせり。沿海は、黄海より朝鮮海峽に至る方面に、海岸著しく屈曲して、釜山浦・馬山浦・木浦・濟物浦・大同江灣・鴨綠江口等の出入あれども、日本海の方面には、慶興灣・德源灣・迎日灣等の外、海岸の出入に乏し。島嶼の主なるものは、東には鬱陵島あり、西より南にかけては、濟州島・巨濟島・珍島・江華島・閑山島・巨文島などあり、就中、濟州島は國內第一の大島にして、島中に名高き漢羅山あり。地勢は、德源灣より江華島のかたまでを劃りて、南北その構造を異にし、北朝鮮は、長白山脈と並行して、數條の分水脈は、



西南より漸次東北に横列をなせるを以て、山岳到る處に延び亘れども、南朝鮮は分水脈東岸に接近して、南北を縦貫せるにより、東部は土地の嶮悪なるに反し、西部は山巒起伏せるうちに、多少の平原を交へ、全羅南北道忠清北道の平野の如きは、地味肥沃にして、農業よく發達せり。

河流は、地形の狹長なると、山岳の起伏せるとにより、流路一般に短小にして、西部南部に流るる鴨綠江、清川江、大同江、漢江、錦江、榮山江、洛東江、及び日本海に注ぐ圖們江等は、その流域稍廣く、殊に鴨綠江、圖們江、大同江、漢江、錦江、洛東江は、國の六大江と稱し、水量多く、流程亦五十里以上に達すれども、多くは、河身の修理、護岸の設備完からざるが故に、舟運灌漑の便を助くること極めて少なし。

忠清全  
羅慶尙を  
稱す

この國の緯度を以て、我が國に移さば、九州の北端より小樽邊までにあてはまるを以て、大體の氣候は、我が國と大差なきはづなれども、大陸に接せるにより、純然たる大陸性氣候を有し、<sup>三</sup>南地方は、夏期洋蠟炎熱のために溶け、北部地方は、冬期積雪尺餘に達し、漢江の如きは、江上よく人馬を往來せしむ。全土降雨多く、殊に夏期は豪雨ありて、陸路の交通を止むることあり。

農産は、大抵我が國のと類すれども、國民が農業を勉めざるに、偏へに天然を頼みて、肥料を施さざるとにより、一般に味ひ美ならず、質亦良しからず。耕作物は、米、麥、豆、稗、粟、高粱、<sup>ハ</sup>蓼等を主とし、米、麥は中部、南部の地に産すれども、北部には稀れなるを以て、地方の住民は、粟、稗、高粱等を常食とせり、國

土、茶、甘蔗の耕作に適せず、従ひて、國人は、蜂蜜を砂糖に、蜜水を茶に代用す。林産は、三南地方山地の多くは、樹木を濫伐せし結果、岩壁砂丘處々に山骨を現はし、不毛の地の觀をなせども、北部の山地には、松柏樅類の良材を産す。

動物もまた、我が國のと異ならざれども、我れになきものには、虎及ひ騾あり、牛は各地に飼養せられ、我が國のよりは、體軀一般に強大なり、また國中最も多きは犬にして、家毎にこれを畜ひ、その皮を敷物とし、その肉を食す。

海産物は、江原、全羅、咸鏡、慶尙等諸道の沿海より、鱈、明太魚、海參等を産すれども、漁船、漁具の不完全なるにより、大抵我が國民に漁網せられ、韓人は却てその供給を仰げり。

鑛産は、砂金、鐵最も多く、砂金は、平安道の安城、殷山、全羅道の

龍潭、咸鏡道の永興、忠清道の稷山等よりの採掘多く、鐵は、平安道の价川、龜城、咸鏡道の文川、北青、甲山、黃海道、の載寧、殷栗、海州附近の鐵岷、慶尙道の慶州等に多し、又銅、銀、鉛等の採掘あれども、その量少なく、銅の如きは我が國よりの輸入多し。住民は、蒙古人種の韓族にして、人口凡そ五百八十萬あり。國民の階級は、兩班、常漢、及び奴隸の三等に分る。兩班は貴族にして、政治上、社交上に至大の勢力を有し、常漢、奴隸の如きは、兩班の通行に遇へば皆地上に伏し、敬意を表するなど、貴賤の別甚だ嚴なり。國民の缺點として、概ね忍耐の氣象に乏しく、又輕躁にして怒り易き風あり、その作業をなせるさまもまた、晝間の大部は、午睡、喫烟、雜談等にその時を費し、勤勉貯蓄の美風全く地を掃へり。

教育の制度は、今に舊習を守り、字房と稱する私塾につきて學を受く。國文は、民間一般に、諺文として我が片假字に似たる文字を用ふれども、政府の文書、法律文等は、凡て漢文にして、上流社會皆これを用ふ。宗教は、上流社會の人のみ儒教を信じ、普通の民はこれを顧みるものならず。佛教は、往時甚だ盛んなりしが、今は、その寺坊を地方に残せるのみ。國民一般に迷信深く、不時の災害に遇ふときは、路傍の二里塚に至り、石を積み上げ、著物の一片を縛り附けて祈禱するなど、愚昧なる風習、今猶盛んに行はれ、キリスト教の如きも、久しく布教に従事してあれども、今に信徒少なし。

政體は君主專制にして、政府の組織は、我が國の内閣に似た

るものを議政府といひ、その次に、内務、外務、度支、軍務、法務、農商工務、學務の七部ありて、その長官を大臣と稱し、各部の大臣はまた、議政府に入りては、贊政と稱し、樞要の國務に參與す、その他、中樞院、宮内府、及び警務院等あり。地方制度は、各道に監察使を置き、その下に、府尹、牧使、群守等ありて、地方一切の政務をなす。軍備は、陸軍にては、實際の常備兵として、事に堪ふるものは、僅に四千餘の歩兵あるに過ぎず、海軍は、今にその設けなし。明治九年、我が國と通商條約を結ぶ。内地の商業は、一週一度、市場を開きて、日常需用の雜貨を取引し、外國貿易場は、仁川、釜山、元山、木浦、鎮南浦、馬山、群山、城津、京城の各開港場及び平壤の開市場あり。その取引は、輸出入とも、年々増加すれども、國民生活の程度低きを以て、購買

力甚だ鈍し。取引先は、日本・支那・ロシアを主とし、うちにも、我が製品費消の區域は逐次繁殖の傾向あり。通貨は、金貨を以て本位とし、他に、銀・白銅・赤銅及び韓錢よりなれる數種の補助貨幣あれども、韓錢の外、未だ多く行はれず。

この國外國貿易の概況によれば、輸出重要品中にて、最も多額を占むるは金地金にして、これにつぐものを、米・豆類・紅蔘・牛皮等とし、その他のものを加へて、總價額凡そ九百五十萬圓あり、その中、我が國へ輸出する價額は凡そ五百萬圓にして、その三百六十萬圓許を金地金とし、米・大豆これにつぐ。輸入重要品中にて、最も多額を占むるは金巾にして、これにつぐものを紡績絲・石油等とし、輸入全體の總價額一千百萬圓あり、輸入の最も多きは、金巾を第一とし、その價額、實に總

體の三分の一に達す、これ國民一般の習ひとして、いかなる賤民も、猶且つ周歲悉く白色の衣を纏ひ、又新年には、必ず新衣を調製するを以ての故に外ならず。我が國よりの輸入は、その價額七百萬圓にして、綿織絲・白木綿・生金巾等その大部を占む。

内地の交通は、京城より平壤を経て、義州に至る道路のみ、從來支那の使臣が往來せしにより、稍平坦なれども、その他は、嘗て修繕を加へざるを以て、貨物の運送、旅人の往來皆困難を極む。鐵道は、我が國人の經營になれる京釜鐵道の京仁線のみ既に開通し、京城より釜山に達する本線は、目下工事中に屬し、また京城・義州間の京義鐵道は、未だ工事に着手せず。海運の事業は、殆ど我が國人の占むる所にかかり、日本

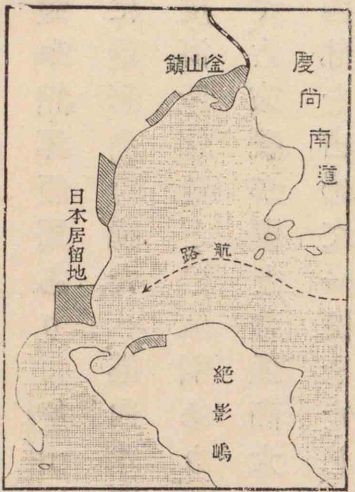
二人口二十萬

三景福宮と稱す

三明治九年江華島事件ありし處

郵船會社大阪商船會社等の汽船は、各開港場を回航せり。  
 京城は、漢城又は漢陽と稱す、國の首府にして、京畿道の中央、漢江に臨み、市街は周圍に城壁を繞らし、八門ありて往來を通ず。皇城は府の中央を占めて、別に一廓をなす。我が國人の居留地は、南大門の近傍を占め、在留人三千人に及び、公使館、領事館、郵便電信局等あり。京城より京仁線の鐵道は、西へ仁川に通ず。仁川は、韓國第一の開港場にして、その埠頭を濟物浦といひ、月尾島その前に横たはれり、本港の輸出は、砂金、紅蔘、穀類、牛皮等を主とし、我が國との取引最も盛んに行はれ、我が領事館、郵便電信局ありて、在留人常に六千に達す。仁川の西南海上には、豐島、西北には、江華島ありて、共に我が國の史上に關係を有す。京城より京釜鐵道は南へ水原、稷

二古都たりの處



釜山

山より、公州の近傍を過ぎ、大邱より、洛東江の流域に沿ひて、釜山に敷かれんとす。水原の南に成歡あり、その西に牙山ありて、共に明治二十七八年の戦役に名高し。稷山に砂金鑛ありて、現時我が國人に稼行せらる。公州より、錦江をたどりて江口に出づれば、群山あり、開港場にして、我が國人在留し、領事分館、郵便局あり。これより南に、全州、光州等の都會あり、光州より、榮山江口に出づれば、木浦あり、開港場にして、灣内廣く、且つ其内外には、許多の島嶼羅列せるを以て、よく強風激浪を防ぎて、船舶の投錨甚だ安全なり。本港

の貿易は、穀類の輸出を主とせり、ここにも我が國人在留し、領事館郵便局あり。釜山は、南部第一の開港場にして、港口に絶影島を横たへ、港内水深くして、船舶多く出入し、穀類・牛皮・海産物などの取引あり、本港は、我が對馬と相對せるを以て、古來、我が國との通商大に開けし處にして、居留地は、灣の西部を占めて一區をなし、在留人一萬に及び、領事館郵便電信局等ありて、市場の取引もまた、日本人その全權を握れり。釜山の北に東萊あり、又その東北に蔚山あり、釜山の西なる馬山は、開港場なれども、取引は未だ盛んならず、爰にも我が國人在留し、領事館郵便局あり。京城より漢江に沿ひて東し、更に支流を北に遡れば春川あり。この地は山間の都會なれども、漢江舟運の極點地なる

（二千  
長藤の  
役加清  
正の苦  
せし處  
戦

により、市況稍繁華なり。春川より北の方、鐵嶺を越ゆれば元山あり、その沿道には、處々に砂金・鐵を出だす處あり。鐵嶺の東南に聳ゆる金剛山は、國中第一の靈山にして、亂立せる奇峯は、皆楓松を以て蔽はるるにより、楓岳又は一萬二千峯と稱し、この山を見ざる中は、韓國を知らざる痴人なりと、韓人のいへるも敢て過言にあらず。元山は韓國第三の開港場にして、徳源灣の南岸に位し、砂金・穀類・牛皮の輸出多く、我が國の領事館郵便局ありて、在留人千八百許あり。元山の北に咸興あり、是より北、日本海の海岸に沿ひて、北青・端川・城津・鏡城・慶興等ありて、城津は開港場なれども、貿易未だ盛んならず、このあたり一帯の海は、明太魚の中心漁場にして、冬期には漁網最も盛んに行はれ、多くは乾魚として全國に

販賣す、この魚は、現王朝の太祖李成珪が嘗て咸鏡道にありし時、好みて食せしより、今も猶祝祭日には國人一般にこれを用ふ。

三韓國最古の都會にして國廟箕子の國あり

平壤は、また西京と稱す。國內第二の都會にして、大同江に沿ひ、頗る要害の地を占む。府の東の乙密臺、牡丹臺は玄武門と共に明治二十七八年の戦役に關し、我が史上に名高く、我が國人ここに在留し、郵便局あり。平壤より南は、黃州、開城を経て京城に通じ、また北は、定州、義州を過ぎて支那に連なる。京義鐵道は、此街道に沿ひて敷かれんとす。平壤より、大同江をたどりて江口に出づれば、右岸に鎮南浦あり、開港場にして、我が國人在留し、領事館、郵便局あり、この地は、日清戦役の時、我が國の兵站部を置きし處なり。

(二)支那

支那は、國號を大清といふ。アジアの東南部を占め、北より東はシベリアに接し、東は朝鮮に界し、又黃海、東海に瀕し、東南は支那海を控へ、南より西はフランス領インド支那、パルマインドに交はり、西は中央アジアを限る。面積我が國の二十六倍あり。

域内を分ちて、支那本部、滿洲、新疆省、蒙古、青海、西藏の六部とし、先なる三部を直省、後なる三部を藩部とす。支那本部は、支那人のいはゆる中國にして、直隸、山東、山西、河南、江蘇、安徽、江西、福建、浙江、湖北、湖南、陝西、甘肅、四川、廣東、廣西、雲南、貴州の

十八省に分ち、滿洲又盛京吉林・黑龍江の三省に分ちて、或はこれを東三省といふ。沿海は、渤海・黄海・東海及び支那海を控へて、遼東灣・直隸灣・大連灣・膠州灣・廣東灣等の海灣をなし、半島には、遼東半島・山東半島・雷州半島等あれども、瀕海の方面は、東より南へかかる一部のみなるを以て、海岸線の延長は、僅に二千里に過ぎず。地勢は、大體西より東へ低下し、國內に亘れる山脈は、皆ハミル臺地より分岐せり、就中、ヒマラヤ山脈は、ハミル臺地より、弓狀に西南境を擁し、天山山脈は、ハミルの北なる葱嶺より分れて、新疆省を東西に横斷し、その一端またアルタイ・ヤプロノイの諸脈を起して、西と北とを圍み、崑崙山脈は、ハミルの南なるカラコルム山脈より分れ、ヒマラヤ・天山の兩脈間

甲、  
乙、

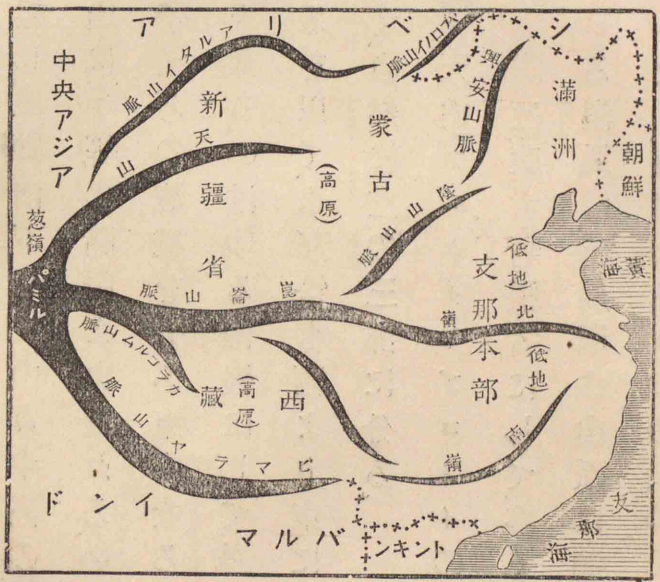
(三)その支脈に太行山脈あり、内支那の五山の一なり、恒山あり、泰山あり、五山の一なり、華山あり、嵩山あり、衡山あり

戈壁

を、東に走りて、西藏・新疆省の界を限り、その東端更に三脈となり、東北なるは、陰山・興安の諸脈につづき、東に長白山脈を起し、更に南下して、山東半島の山地をなし、東なるは、岷嶺・秦山・伏牛等の諸脈よりなれる、いはゆる北嶺にして、黄河と楊子江との流域を分ち、東南なるは、苗嶺・大庾嶺・仙霞嶺等よりなれる、いはゆる南嶺にして、楊子江と廣東河との流域を限るを以て、全形恰も西より東に向へる桐葉の葉脈狀をなし、自然に左の三部に分る。

(一)天山・アルタイ・ヤプロノイの諸脈と、陰山・興安等諸脈との間は、蒙古・新疆省にして、多くは高原よりなり、外洋より來る濕風は、皆周圍の山脈に遮らるるが故に、一般に降雨少く、有名なる戈壁の大砂漠ここに存す。





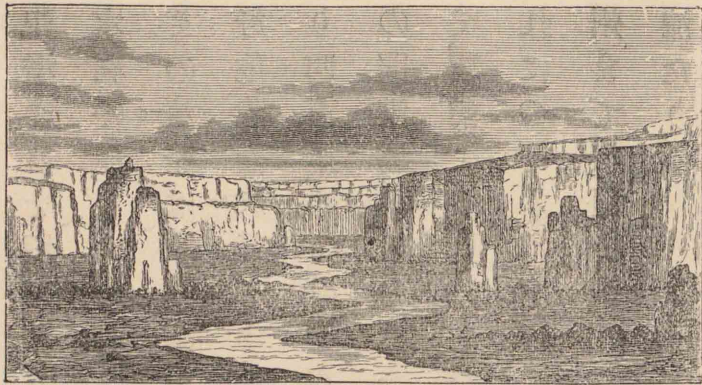
支那の地勢

は、滿洲及び支那本部にして、滿洲は、その大部山岳を以て充たされてあれども、支那本部は豊沃の平原に屬し、支那

(二)ヒマラヤ山脈と崑崙山脈との間は西藏・青海にして、大部は、海拔一萬尺より一萬五千尺に達する世界第一の高原地方に屬し、山谷には、人跡の未だ至らざる處多し。

(三)崑崙山の支脈なる、陰山、北嶺、南嶺等、諸脈の間

の富源は、多くこの地方一帯に存し、國民の九割以上實にここにあり。



黄河の上流

勢速くして、水運の利に乏しきのみならず、河道は流下する

(二)單に河ともいふ

一又單に  
江といひ  
上流を金  
沙江といふ

三西江に  
して東江  
北江と落  
合ひて珠  
江となる

黄土に埋められ、又年々の洪水は、流路をかへて數省の内に  
氾濫するを以て、往々一揆騒動の基をなすことあり。獨り  
水利の最もよろしきは、楊子江にして、流程千五百里に達し、  
その流域は十六萬方里に亘り、上流は、急湍奔流をなして舟  
行危険なれども、中流以下は、水勢緩きを以て、汽船は江口よ  
り四百里、小舟は七百里まで航行し、またその沿岸には、許多  
の開港場あるのみならず、流域の平野は、土肥え、桑園相望み  
て、蠶業よく發達し、全國中農産の最も豊富なる處たり。こ  
れにつげるは、廣東河にして、流程は僅に四百里なれども、梧  
州まで汽船を通ずるを以て、西南部地方に於ける須要の河  
流たり。  
國土廣きを以て、氣候從ひて均一ならず。滿洲・蒙古・新疆省

青海・西藏は寒暑共に強き大陸性氣候にして、滿洲の如きは、  
北部は、冬期華氏の寒暖計、氷點下四十度より五十度に降り、  
夏は同じく九十度に上ることあり、西藏亦寒さ強く、高嶺は  
皆千古の雪を残り、蒙古、新疆省は、四周の山岳、濕風を遮る  
により、降雨甚だ少なく、空氣は一般に乾燥なり。支那本部  
は、黄河・楊子江の流域は、外洋より濕風を受けて寒暖を調和  
し、南部もまた、沿岸の地は、夏秋の候大風屢起り、田園家屋を  
害することあれども、氣候風ありて雨量夥し、獨り北部は稍  
大陸性にして、北京の地は、夏期の溫度九十七度に上ること  
あり。

産業は、政府の統計なきが故に、精確なる數量及び價額を知  
ること能はざれども、支那本部にては、米・麥・玉蜀黍・高粱・綿・茶

麻・甘蔗・人蔘等多く、殊に米は古來國民の主食物なるを以て、南部・中部の水田には、その産額夥しく、殊に江蘇・浙江・江西・湖南の諸省は、收穫の多きと、品質の佳なるとを以て聞ゆ、これに反して、直隸・山西・陝西・甘肅の諸省は、水田に乏しきにより、住民は概ね麥・高粱・粟等を主食物とす。綿は中部・南部より産し、殊に江蘇・浙江よりのは品質佳良なり。茶は、紅茶・綠茶・磚茶・茶末の種類ありて、多くは南部・中部に栽培せられ、殊に福建省よりは、最も良好なる茶葉を出だし、生絲と共に、輸出の多額を占むる特産物なり。その他、甘蔗・麻は南部地方を主とし、廣東省の砂糖また名あり。鴉片はもと、いづれの地方にも栽培せざりしが、今は、滿洲より佳良のものを産す。又國の風土、桑樹の栽培に適し、江蘇・浙江・湖北・福建・廣東の諸

省これが中心に當り、從ひて、蠶業は古來發達し、絹織物・生絲は、夙に外國の市場に名高く、山東・山西の二省には、盛んに野蠶を飼ひ、山繭をとりて、それより絹織を製す。滿洲は米作に適せざれども、豆・粟・高粱等の産に富み、豆類及びそれより製する油糟は、殊に主要の輸出品たり。この地方また、古へより北狄の侵害を防ぐため、森林の伐採を禁ぜしにより、松柏樅類は到る處に繁茂す。蒙古には亦佳良なる人蔘を産す。

牧業は、各地共に盛んにして、蒙古の馬・駱駝・山羊・綿羊・羚羊・滿洲の騾・蒙古・滿洲の黄牛・南部諸省の水牛・直隸省の驢等は、その産出夥しく、蒙古の如きは、婦女兒童までも牧養に従事し、富家は、牧馬二萬頭に及ぶものあり、豕は肉食品中國人の最

も嗜むものなるを以て、大抵各地に飼養し、又西藏・雲南省の麝香は殊に世に名高し。毛皮獸は、殊に滿洲に多く、虎・豹・熊・黑貂の類あり。海産物は、最も支那人の好む所にして、大抵は我が國より輸入を仰ぎ、その鮑刻昆布・海苔・寒天の如きは、乾豕と共に五色菜と稱へ、國人貴重の食饌に供す。

鑛物は、石炭・鐵の鑛層、支那本部の到る處に分布し、石炭は、四川省を始め、直隸・山西の二省に最も多く、鐵は直隸・山西・湖南・山東・四川の諸省に豊富なれども、器械的採掘法未だ行はれざるが故に、現時直隸省の開平炭坑及び、その他の數個所に稼行せるのみ。銅は中部・南部の諸省に産すれども、猶供給不足らずして、我が國よりの輸入多し、その他、滿洲・新疆省・西藏には多少の金銀を産す。また、この國に古來有名なるは、四

川省の鹽井・鹽泉にして、これより多量の食鹽を製す。

工業は、南部に最も盛んにして、廣東省の彫刻物・諸細工物・福建省の繡縫品・浙江省の織物・江西省の陶磁器・江蘇・浙江・廣東諸省の扇など、皆名高く、漆器・抄紙は、製法舊式なれども、製出甚だ盛大を極め、又、西藏には、佛像・佛具及び金屬・香木を以て作りたる製品・精巧を極む。

外國との取引は、日本・イギリス・インド・アメリカ合衆國との間に最も多く、輸出品は生絲・絹織物・茶等を主とし、その總價額約二億一千萬あり。輸入品は綿布・鴉片類最も多く、その總價額約二億六千萬あり。我が國との取引は、綿油・糟豆・類・砂糖・生卵等を輸出し、その價額二千七百萬あり。輸入品は石炭・燐寸・海産物・綿織絲・煙草等最も多く、その價額四千

三百萬圓あり。  
 現今、條約若くは勅令によりて、外國との貿易を許されたる貿易場は、上海・漢口・廣東・汕頭・天津・芝罘・重慶・鎮江・牛莊・蕪湖・九江・福州・寧波・廈門・杭州・梧州・北海・江甯・瓊州・三水・宜昌・溫州・蘇州・三都澳・沙市・岳州・秦皇島・吳淞・武昌・九龍・南寧・龍州・蒙自・思茅等にして、愛琿・賣買城・張家口等また開市場たり。  
 我が國と通商條約を結びしは、明治四年にして、明治二十七八年の戰役により、一旦無條約國となりしが、その後、二十八年四月十七日、更に下關にて條約を結べり。  
 國民の總數は四億二千五百萬ありて、一方里の平均人口約六百人に當る。その分布は、藩部は、皆稀少にして、支那本部に稠密なることは、左に示す如し。

	面積(千方里)	人口(千人)	一方里平均人口
支那本部	二五〇、	四〇七七〇〇、	一六三〇、
滿洲	六〇、	八五〇〇、	一四二、
蒙古	一八〇、	二五八〇、	一四、
新疆省	九〇、	一二〇〇、	一三、
西藏	七〇、	六、四三〇、	五四、
青海	五〇、		

住民は蒙古人種にして、漢族通古斯族蒙古族トルコ族西藏族インド支那族等に分る。その中、最も多數なるは漢族にして、吾人のいはゆる支那人これなり、この民族の特質として、節儉勤勉、信約を重んじ、團結力堅く、また商機に巧みに、寛優にして猜忌心の少なきことは、たれ人も稱する所なれど、一般に進取の氣象に乏しく、また男子の鴉片煙を喫すると、

婦人の纏足とは、今にその弊風を改めず、漢族の外國に移住



鴉片煙を喫せしめる人

衆國の一部には、至大の勢力を有せり。通古斯族は滿洲人

せるもの、殆ど四百萬人に達し、マラ  
イ群島、インド、支那、及  
びアメリカ合

にして勇武よく騎射に堪へ、古へは北方の強を以て聞えしかど、清朝の祖宗が、この族より興りて、支那を統一せし以來、漢族と混同し、今は習慣風俗共に彼等に同じ。

教育の制度は、今猶古風にして、國子監、府學、州學、縣學、家塾等にて、經史詩文を教ふるを以てその課目となし、近時大に學事を改良せんとするの計畫ありて、或は我が國より教師を聘し、或は多數の留學生を我が國に送れども、その効果、今に著しからず。言語は、支那語、滿洲語、蒙古語、トルコ語の數種に分れて、國語は統一せず、支那語の如きも、その方言幾種にも分れ、獨り官話のみ、一般に上流社會に通ず。

宗教は、漢族にては、上流社會の一般は儒教を信じ、その他は、大抵佛敎、道教を奉じ、又佛敎の一派なる喇嘛敎は、通古斯族

西藏族・蒙古族に勢力を有し、西藏には教王達賴喇嘛ありて、無限の權力を有す。トルコ族は大抵ムハンマド教を信ず。キリスト教は、今猶多數の信者を有せざれども、舊教最も盛んなり。

政體は君主專制にして、政治機關を帝室部・中央部及び地方部に分ち、帝室部は専ら帝室のことを處理し、中央部は、上に内閣ありて、其下に吏部・戸部・禮部・兵部・刑部・工部・海軍部・外部・商務部の各衙門及び我が國の參謀本部に似たる軍機所ありて、庶政を掌どれども、實際の權力は軍機所にあり。地方部は、支那本部には、省に總督又は巡撫を置き、その下に、布政司、按察使、道臺、知府等の設けあり。滿洲は、清祖興起の地なるを以て、特に奉天府に禮部・戸部・刑部・兵部・工部の各衙門を置

き、また各省に將軍、副都統を置き、奉天には、別に府尹ありて、東三省の民政を統べしむ。新疆省は、甘肅省に駐在せる陝甘總督これを督し、その下に、甘肅省と合せて一人の巡撫を置く。また蒙古、西藏、青海は、北京に理審院ありて、政務を督し、蒙古は將軍、都統等を置けども、各部落に藩王ありて、統御の實權を有し。西藏は、駐藏辦事大臣をして其治を監督せしめども、實權は、喇嘛法王にあり。青海は、甘肅省の西寧に派遣せる辦事大臣、部落の庶政を決す。總督、巡撫の配置は、左の如し。

	總督	總督駐在地	巡撫	巡撫駐在地
直隸	直隸總督	天津		
山東			山東巡撫	濟南
山西			山西巡撫	太原

河南	江蘇	安徽	江西	湖南	湖北	四川	浙江	福建	廣東	廣西	陝西	甘肅	新疆	雲南	貴州
	兩江總督			湖廣總督		四川總督	閩浙總督		兩廣總督		陝甘總督			雲貴總督	
		江寧		武昌	成都		福州		廣州		蘭州			雲南	
河南巡撫	江蘇巡撫	安徽巡撫	江西巡撫	湖南巡撫	湖北巡撫		浙江巡撫	福建巡撫	廣東巡撫	廣西巡撫	陝西巡撫	甘肅巡撫	新疆巡撫	雲南巡撫	貴州巡撫
開封	蘇州	安慶	南昌	長沙	武昌		杭州	福州	廣州	桂州	西安	蘭州		雲南	貴陽

124

歲入は大抵一億兩にして、主に地租・鹽稅・海關稅・鴉片稅等よりその財源を求め、各省に割りあててこれを集む、されど、各省はその所管の用度金を引き去り、餘分を中央政府に納むるを以て、收支常に相償はず。貨幣は貿易場の取引には洋銀を用ひ、一般の通貨としては、銀兩を以て本位とし、補助貨幣としては銅錢あり、されど、内地は民間自由の鑄造にかかると、銀塊を以て賣買の用に供するがため、その取引頗る不便を極む。

陸軍は、八旗兵・綠旗兵・練軍・勇兵の四種あり。八旗兵は、漢人・滿洲人・蒙古人を以て編制し、京師を守る者を禁旅八旗、地方を守る者を駐防八旗と稱し、軍旗の色により、八部に分ち、通じて二十四旗となす。綠旗兵は漢人よりなりて、各省に分



屯す。勇兵とは事あるの時募りに應じて、八旗・綠旗を補ふ郷勇を稱す。練軍は、八旗・綠旗より選抜したる精銳なる常備兵なり。されど新式の訓練をなし、新式の兵器を有するものは、その一部分に過ぎず。

海軍は、北洋・南洋・福建・廣東の四艦隊に分ち、北洋水師は直隸總督、南洋水師は兩江總督、福建水師は閩浙總督、廣東水師は兩廣總督に隸し、海軍部衙門各水師を統ぶ。就中、最も精銳なる北洋艦隊は明治二十七八年の戰役に殆ど全滅せられしかば、今はただ脆弱なる艦艇を殘せるのみ。

交通は、南部は舟運を恃みて、完全なる道路の設なきに反し、北部は、水運の便に乏しきを以て、陸路は、如何なる僻地も、猶車道を開き、一輪車の手車ありて、運搬の用に供せり。交通

二 蘆津榆  
津の兩鐵  
道を又關  
内鐵道と  
いふ

三 青島、  
濟南間、  
膠州、沂  
州間



一 輪車の手車

の機關には、郵便・電信は都邑村落を連絡し、鐵道は現時北京・天津間の蘆津鐵道、天津より山海關に達する榆津鐵道、山海關より牛莊に至る關外鐵道、及び上海吳淞間の淞滬鐵道と、山東鐵道の一部等との數線は既に開通し、北京より漢口に達する京漢鐵道はベルギー會社の敷設にかかり、その兩端の一部既に開通し、又東清鐵道は、ウ

ラジボストックの北なるニコリスクより滿洲に入り、哈爾賓を經、西北へ興安山脈を横ぎりて、シベリア鐵道に連絡する北線、及び哈爾賓より南へ分れ、遼陽、海城、蓋平、金州、大連を經て、旅順に至る南線、並びに海城、蓋平間より分れ、營口に達する牛莊支線は、既に開通せり。海運の事業は、上海を中心とせる招商局、太古洋行、怡和洋行の汽船を首め、我が國の日本郵船會社、大阪商船會社、イギリス、ドイツ、フランス、アメリカ合衆國等の船舶これに従事し、楊子江、廣東河亦汽船の往來頻繁なり。

郵便は、各開港場に設けてある官立郵便局及び各要地にありて、政府の通信を遞送する官立驛站の外は、皆私設の信局にして、數省と聯絡を通じ、信書の發送に従事す、その組立は、信書に印紙を貼用することなく、ただ發送を依頼すれば信局は受信者より賃錢を受くる制なれば、不完全なるは免

(二)いはゆる燕京

るる能はされども、迅速正確にその傳達を終へ、敢て遺失等の患なし。

北京は全國の首府にして、人口百八十萬、直隸省の北部に位置し、周圍に城壁を繞らして、城内を内城、外城にわかち、内城は府の北部を占めて、皇城、王侯の邸宅、各衙門、各國公使館等皆ここにあり、その南は外城にして、商店軒を並べ、市況繁華なり、我が國の公使館、郵便局は内城にあり。北京より鐵道は東南に天津に通ぜり。この沿道は、明治三十三年清國事變の際、各國の聯合軍が行進せし處なり。天津は北清第一の開港場にして、貨物の集散速く、人口九十五萬あり、外國人の居留地を紫竹林といひ、我が國人在留し、總領事館、郵便局あり。天津より、鐵道は白河に沿ひ、河口の塘沽に至り、更に海岸を北へ開平、炭坑、山海關に至る、山海關の近傍なる秦皇島は開

青泥窪

(一)又盛京ともいふ盛京省の省城  
(二)吉林省の省城

港場なり。山海關より、東北の一帶は滿洲にして、遼河の左岸に營口あり、即ち牛莊の開港場にして、我が國へ大豆、豆糟、豆油等を輸出し、我が領事館、郵便局あり。遼河以東の地は、日清戦役によりて、一旦我が國に收め、後また清國に還附せし、いはゆる遼東半島にして、鳳凰城、海城、蓋平、大連、旅順、金州、<sup>ダ</sup>ルニー等は、海洋島附近の海と共に、我が陸海軍の激戦せし處、その中、大連、旅順一帶の地は、ロシアが清國より租借したる地にして、全部を關東省と名づけ、總督府を旅順に置き、大總督を以て省内の軍政、民政を統ぶ。牛莊の北なる奉天は、清朝の舊都にして、滿洲第一の都會たり。その東の興京は、清祖興起の地とす。奉天の東北なる吉林は、毛皮集散の地たり。これより、松花江を下れば、哈爾濱あり、この地は、滿

洲中最も豊沃なる平野のうち、立ち、鐵道三方に通じ、また、年内六ヶ月の間は、松花江によりて、ハバロフスクとの間に、航通頻繁なるを以て、市況盛んなり。この近傍に甯古塔、三姓、齊々哈爾等の都會あり。齊々哈爾の北なる愛輝、また市況盛んなり。總じて滿洲には、近時我が國人多く在留し、哈爾濱を中心として、東清鐵道南北線に沿ひ、その數既に千人以上に達せり。

天津の南に大運河あり、河は白河、黄河、楊子江の諸水を連結して、南は杭州に終る。往時、南方の貢米を北京に致すには、皆その搬路をここに取りしかども、久しく修繕を加へざるがため、今は、一部に舟楫の通ぜざる處あり。杭州は、北の蘇州とともに、下、關條約により開かれたる開港場にして、杭州の

(一)人口八  
(二)人口五  
(三)人口十  
十萬

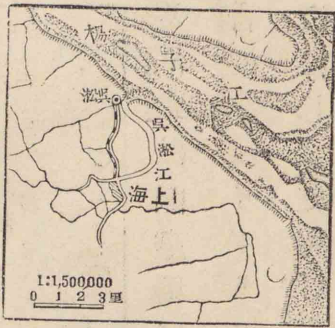
生絲絹織物・扇と、蘇州の繻子・繡縫品とは殊に名高し、我が國人ここに在留し、領事館・郵便局あり、この地の一帶は、山麗しく、水清く、近傍の姑蘇山・寒山寺・會稽山はよく人の傳誦する所たり。蘇州の西北に鎮江あり、揚子江と大運河との會流點に位する開港場にして、貿易盛んなり。ここより揚子江を上れば、南岸に江甯あり、いはゆる南京にして、今は開港場となり、我が郵便局あり、城市の大半は嘗て長髮賊に焼かれしがため、風物いたく荒れ果てたれども、都人は風流にして、文華の盛んなること帝國中第一と稱せらる。繻子・緞子及び南京燒はこの名産たり。これより長江を遡れば、江岸に米・紙の輸出ある蕪湖あり。鄱陽湖畔に陶器・茶の輸出多き九江あり。湖南を流るる贛江流域の一帶は、茶の産出夥し、

（古への  
蜀の地  
えき、

九江より江を上れば、漢口・武昌・沙市・宜昌あり、皆開港場にして、殊に漢口は内地の諸省と水陸の便を有し、又大洋通ひの汽船、ここまで航行するを以て、江岸諸港中にて、貿易最も盛んに、茶の輸出多し、この地及び沙市には我が領事館・郵便局あり。沙市の東南に洞庭湖あり、又西湖といふ、湖水の江に注ぐ處に、岳州の開港場あり、頗る湖山の景に富む。宜昌より西、重慶までは、江の兩岸、山高く、江流水小に、且つ處々に急流あるにより、船舶の航行危し。重慶は、長江の舟楫極限地に位せる重要な開港場にして、我が領事館あり、ここより上海までの航程千五百海里あり。重慶の西なる成都は、山間に僻してあれども、人口約八十萬ありて、市街繁華なり。天津より渤海を経て、直隸海峽を過ぐれば、右方は山東半島

二申江又  
は滬江と  
いふ

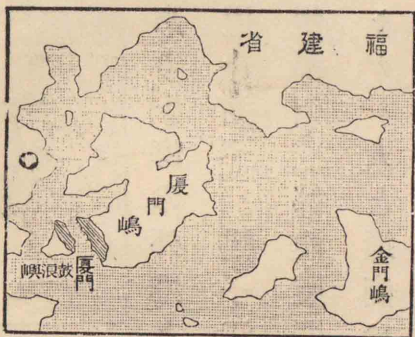
にして、芝罘、威海衛あり。芝罘は開港場にして、本名を烟臺と稱すれども、外人が北なる芝罘山と誤用せしより、今はこの地の名となりぬ、ここに我が領事館、郵便局あり。威海衛は、重要な軍港にして、又北洋艦隊の根據地なりしが、日清戦役の時、打ち破られ、今はイギリスこれを占領す。ここより東、山東角の榮城灣は、日清戦役の際、我が第二軍の上陸せし處とす。山東角の西南に膠州灣あり、その灣頭の膠州は、附近の一帶とともにドイツの租借地にして、鐵道は、西の方、濟南に敷かれんとす。濟南より黄河を上げば、開封、河南あり。河南は往時の洛陽にして、史上に名高き遺蹟多し。濟南の近傍の曲阜は、古への魯の都にして、有名なる孔廟あり。上海は、東洋第一の開港場にして、黄浦江と吳淞江との落合



近附のそび及海上

ひ點に位し、生絲、茶、鴉片、金巾の取引最も盛んに行はれ、人口五十万あり、我が國人多く在留し、總領事館、郵便局あり。上海より、黄浦江を下れば、その水の揚子江に會する處に吳淞あり、上海の外港として、今は開港場となり、また上海まで鐵道を通ず。揚子江口より、臺灣海峽までの沿岸には、寧波、溫州、福州、三都澳、廈門の開港場あり。寧波は、數百年以來、ポルトガル人と通商せし處として、往時は、繁華なる都會なりしが、今は上海とその位置を換へぬ、古へ我が國よりの遣唐使も、多くはここよりせり。溫州は、我が國人のいはゆる溫州密柑の源産地たり。福州は、閩江の北岸に位し、人口六十五萬

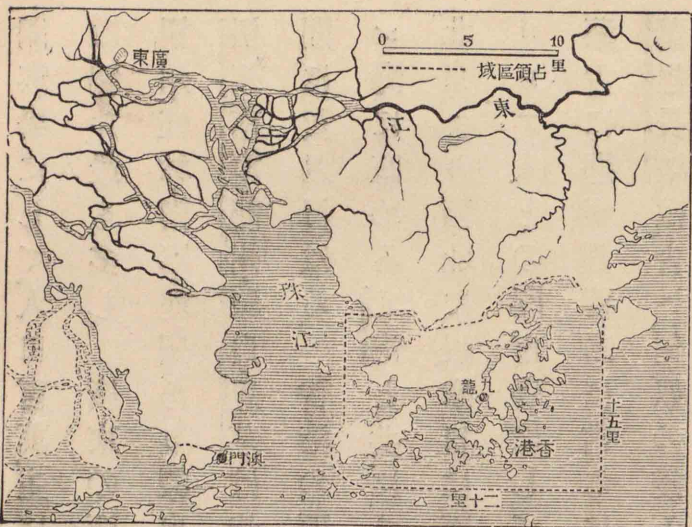
ありて、市街繁華なれども、江水淺きがため、外國船は下流の馬尾港に泊す。この地もまた、我が國との交通久しく、現時我が領事館、郵便局あり。馬尾は軍事上須要の地なるに



廈門

り、砲臺を築き、艦隊を調し、船政局を設け、又海軍兵學校、造船學校等あり。廈門は同名の小島に立ち、茶、砂糖、紙の輸出あり、我が國人多く在留し、領事館、郵便局あり。ここより臺灣へ海底電線を架せり。廈門の西南なる汕頭は開港場にして、砂糖の輸出盛んなり、汕頭の西なる香港島はイギリスに屬し、其市街をビクトリアと稱す、開港場にして、支那、日本、及び南洋諸島へ對する貿易の中心に當

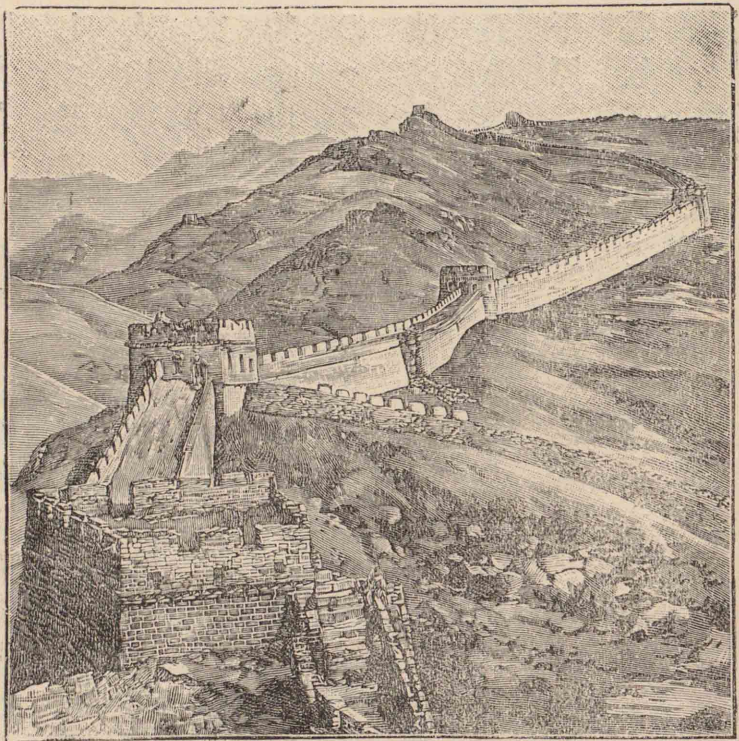
二人口凡  
そ三十萬  
イギリス  
東洋艦隊  
の根據地



香港及びその附近

り、輸出は鴉片、砂糖、生絲等を主とし、我が國よりは、熟銅、羽二重、石炭、燐寸類を輸入し、領事館あり。本島の對岸なる九龍は、その附近の大陸部及び香港島四周の諸島嶼と共に香港防禦のため、にイギリスに貸與し、また西なる澳門はポルトガルに屬す、九龍、澳門は共に開港場にして、澳門の民は、支那人多く、無賴の民、賭博を事とし、政廳はそれに課税して、歳入を補へり。香港より、北

の方、珠江を遡れば廣州あり、又廣東と稱す。支那南部第一の開港場にして、人口百萬、主に絹織物・茶・砂糖を輸出し、輸入には鴉片最も多し。廣東の西に三水の開港場あり、更に西に梧州・桂林・南寧・龍州あり。蒙自・雲南・思茅などあり。うちにつき、梧州・南寧・龍州・蒙自・思茅は皆開港場にして、フランス人との間に貿易行はる。香港の西南なる海南島の瓊州は、トンキン灣に臨める北海と共に、また開港場たり。北京より西北に、張家口に至れば萬里長城あり。張家口はロシア人との開市場にして、磚茶の取引盛んに行はれ、また蒙古に通ずる要路に當るにより、關門を設け、往來を監す。萬里長城は、古へ、匈奴の侵入を防がんがために築きし長壁にして、山海關より、西のかた嘉峪關に達し、その延長凡そ七



萬里長城

百里、要害の處は二重又は三重に引き廻し、六十間毎に堡寨を備へしものなれども、今は殆ど荒廢に屬せり、しかも、猶大運河とともに支那の二大奇觀と稱す。長城以北は蒙古にして、

コピの砂漠其中央に横たはりて、漠南・漠北を内外の蒙古に

成吉思汗  
二土人は  
砂漠支那  
人は瀚海  
と云ふ

分つ。外蒙古の北部に、ウルガ即ち庫倫あり、その北に賣買城あり。ウルガには西藏より派遣せる喇嘛教の副王駐在して、政治上、宗教上の實權を握り、喇嘛教の僧徒また二三千人に達し、從ひて、佛寺は結構壯麗を極む。賣買城はロシア、支那の陸上貿易の要區に當り、駱駝隊商によりて、かれの羅紗、金巾、鐵器類と、これの茶、羊皮類との交易行はる。その南のハラホリムは、チンギスハンの都せし處なり。ゴロの砂漠は、新疆省なるマリム河の流域より起り、東は滿洲の界に亘る、漠内の一部は、無限の曠野なれども、東蒙古一帯は邱阜平原、谷地を混へたる荒野にして、處々に淡湖、鹹湖を湛へて、遊牧の土人ここに露宿し、また春期には、綠草處々によく繁茂し、駱駝及び隊商の率ある馬を養ふに足る。

二ノルは  
蒙古語に  
義して湖

三又東ト  
ルキスタ  
ン或は支

北京より、西南に保定、太原、西安あり。西安は渭水の南畔に立ち、漢、唐などの都せし古への長安にして、尋ぬべき舊蹟甚だ多し。西安の西北なる咸陽は秦の古都にして、近傍には阿房宮の遺趾あり。西安より西北、黄河の右岸に蘭州あり。更に西北に肅州あり、其附近の玉門關は、古へのいはゆる西域に通ずる要路たり。新疆省の一帯は、天山山脈によりて天山南路、天山北路に分れ、北路にはイリ河ありて、西にバルハシ湖に入り、南路にはタリム河ありて、東にロプ、ノルといへる湖に注ぐ、其流域の膏地は、田圃開け、人民また稠居し、北路のウルムチ、即ち迪化、クルヂ、即ちイリと、南路のヤルカンド、カシガルとは、皆中央アジアに通ずる要區に當れり。總じて、新疆省は、もと南路を回疆、北路を新疆といひしが、嘗て



トルキ  
スタ  
ンと  
いふ  
三又  
ズン  
ガリ  
アと  
いふ

ロシアに占領せられ、新疆條約の結果、再び清國に復せしよ  
り、その防備を嚴にせむがため、新疆省を新設したり。  
西安より、西南のかた漢中を過ぎ、いはゆる蜀の棧道を経て、  
成都に出づる沿道は、風光明媚にして、奇峯聳え、清流その麓  
を繞る處、恰も一幅の墨畫を展ぶるに似たり。成都より西  
は、山また山の嶮道を踏み、金沙江を渡れば、西藏にして、サン  
ボ河畔にラッサあり、この地は、四方の商民多く集りて、商工業  
盛んに行はれ、また喇嘛教の法王達賴喇嘛は、法座を近傍の  
ボタラに安定せるを以て、寺院堂塔到る處に建ち、人口六七  
十萬の中、寺中の僧は、實にその三分の一を占め、住民一般に  
佛を信ずること甚だ厚し。西藏の東北にユコノール即ち  
青海と名づくる鹹湖あり、その附近の地は青海にして、住民

二庫々諾  
爾と書く

亞細亞  
西亞

西伯利亞

多くは牧養を主とす。

### (三) アジア、ロシア

アジア、ロシアは、アジアの北部全體を稱す。皆ロシアの領土  
にして、シベリア、中央アジア、カフカズの三區に分つ。

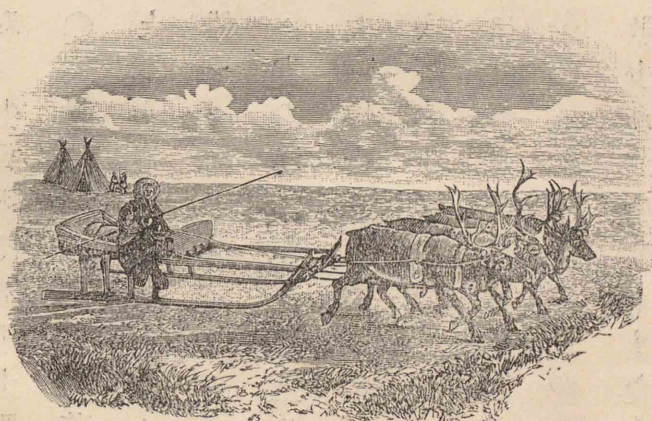
#### シベリア

シベリアはアジアの北部全體を占め、面積我が國の三十倍  
に近し。区域内は、トボルスク・トムスク・イニセイスク・イルク  
ツクの四省、ヤクツク・外バイカル・アムル・沿海の四州、及びカ  
ラフト島の九部に分れ、行政上、トボルスク・トムスクの二省  
は、本國の直轄に屬し、イニセイスク・イルクツク・外バイガル

シベリア

ヤクツクを東部シベリア管區、アムル沿海・カラフト島をアムル管區に屬せしめ、各管區には總督ありて、一切の軍政・民政を總べ、省州には知事、カラフト島には長官を置く。兵備は、陸軍にありては、東部シベリア管區をイルクツク軍管、アムル管區をアムル軍管として、その司令部を總督所在の地に置き、トボルスク・トムスクの二省は、中央アジアに屬し、その司令部はオムスクにあり、外に、コザック兵の分團ありて、各軍管に分隸す。海軍は、ウラヂボストクに鎮守府を置き、シベリア艦隊・東洋分遣隊・義勇艦隊これに屬す。地勢は東南部に山岳多く、漸次深き森林となり、次第に西北に低く、北部に傾きては、ツンドラ(TUNDRA)即ち苔原をなし、西北に傾きては、豊沃なる黒土層の平原をなして、ウラルの連嶺その

西境を限り、オプ・イニセイ・レナ・アムル等の諸大河、域内を流る。生産物には、黒土層地方の燕麥・裸麥、森林地方の松・樅等の良材、諸種の毛皮獸、苔原地方の地中に埋没せる、マンモス(MAMMOTH)と稱する古代の大象、ウラル山の白金・金、アルタイ山の金銀・鉛、レナ河の流域及びアムル沿海二州の砂金より、イルクツク省の黒鉛などに至るまで、無限の富を有すれども、氣候の大陸性なると、緯度の高きとにより、苔原地方の如きは、冬期人畜の生活に適せず。されば、本國政府は、夙にこの拓殖に注意せるにも拘はらず、人口甚だ稀少にして、土著人及びロシア人を合せて五百七十萬に過ぎず、中にも、土人はその數少なく、生業もまた、大抵牧畜・漁獵を主とし、官吏・地主或は農商・採鑛など、あらゆる事業は皆ロシア人の經營にかかり



馴鹿と櫓

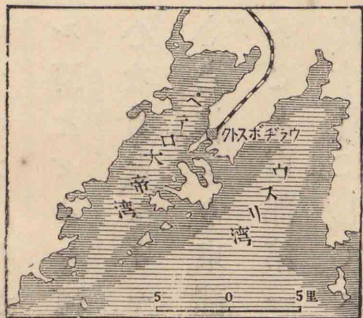
國の南部及び諸河の流域に散在せるロシア人は、全人口の八分の七を占む。内地の商業は、處々に年市を開きて、内地の生産物とロシア・支那のとを交換し、外國貿易場は、ウラヂポストク・ニコライエフスクを主とし、キヰフタ亦開市場たり。道路は、冬期積雪多きにより、土人は犬・馴鹿・馬の輓ける櫓を用ふれども、官道は廣く平かにして、馬車の往來自由なり。されど、政府は猶この國の利源を開發し、併せて世界的生産

物の交換に供する、公道を設くる必要を認め、終にシベリア鐵道を敷設するに至れり。この鐵道は、ロシアのチユリアビンスクより起りて、東の方オムスク・クラスノヤルスクより、ウヂンスク・イルクツクを經、バイカル湖畔を廻り、チタ・ストレチンクスより、アムル河の左岸に沿ひ、ブラゴベシチンスク・ハバロフスクに至り、南に曲折して、ウスリ江の岸に沿ひ、ウラヂポストクに達する。延長四千七百哩の大鐵道にして、その大部は既に敷設を終へ、ただバイカル湖畔と、アムル河畔との線路のみ、夏期汽船を以て、その間を連絡せしが、曩に支那と條約を結び、その版圖を通じて、鐵道を敷設するの承諾を得しより、アムル線を捨て、ウスリ線のニコルスクより分岐し、滿洲を横斷して、シベ

リア鐵道に合する凡そ千九百哩の東清鐵道を敷設し、その大部既に竣工せり。

抑、ウラヂポストクとペテルブルグとの間は、約六千八百哩にして、或は舟路をとり、或は鐵道によりてするも、凡そ百二十日を費さざるを得ず、然るに、この鐵道にして完成せば、遅くとも、二十日乃至二十五日間を要するに過ぎざるを以て、その全線の開通したらむには、我が國よりするも、三十日以内に、ヨーロッパに到るを得べきなり。

ハバロフスクは、アムル管區總督所在の地にして、アムル河の右岸、ウスリ江の合流點に位し、ウラヂポストクと鐵道を通じ、河流によりてニコライエフスク、ブラゴベシチェンスクと汽船の便あるを以て、東部シベリア屈指の貨物集散地た



クトスポデラウ

り。ウラヂポストクは、ペテロ大帝灣に臨み、港内は、十二月より、四月中旬に至るまで氷結すれども、將來は、陸海を接續する世界的交通の要區にあたり、我が國より穀類、綿布、雜貨類を輸入し、我が國の貿易事務官あり。本港はまた、軍事上唯一の要鎮なるが故に、要塞を築き、砲臺を設け、鎮守府、火藥庫、海兵團、船渠、貯炭所等の設備よく行き届き、武装せる商港なりとの一語、その實景を寫せり。ここ北なるニコリスクは、東清鐵道の東端に當れり。ニコライエフスクは、アムル河口の左岸に位する開港場なれども、貿易盛んならず。アムル河は、流程千二百餘里、下流は河幅廣き所

十五町ありて、漕運の便に富めども、大抵十月中旬より五月中旬に至るまで氷結す。河口の東なるカラフト島には、我が國人の出稼して、漁業に従事する者多く、アニバ灣頭のコルサコフに我が領事館あり。ブラゴベシチンスクはアムル河とゼイヤ河との會流點に位し、アムル河汽船往復の中心なると、ゼイヤ河の上流に金産地あると、且つは愛琿に近きとにより、東部シベリア貿易の中心をなし、市況の盛んなること東部第一たり。ここより、小形の汽船に乗り換ふれば、十日にしてストレチンスクに至る、その西のネルチンスク・チタは、共に地方の要都なり。イルクツクは、東部シベリア管區總督所在の地にして、バイカル湖の西南に位し、毛皮の取引盛んなり。府の東南なるキフタは賣買城に接し、毛皮

中央亞細亞

面積一萬五千餘方里  
人口二百五十萬  
面積三萬七千方里  
人口八百八十萬

茶の取引あり。イルクツクの西北なるクラスノヤルスクは、北なるイニセイスクと共に、また毛皮・諸礦物の貿易あり。クラスノヤルスクの西なるトムスク・トボルスクは、オプ河の流域に立ち、トムスクは砂金・毛皮を以て著はる。

中央アジア

バミル臺地の西北一帯を中央アジアと稱し、地の廣さ、我が國に十倍すれども、人口は僅に七百八十萬に過ぎず。全土草原地方。トルキスタン・外カスピに分れ、アム河の流域には、アハラ・ヒバの二國あり。

地勢は、東部・南部に山岳多く、漸次西北に低き草原をなし、カスピ海とアラル海との間は、荒蕪の高原にして、アム河・シル河の流域、地味肥沃なり。氣候は、寒暑共に強く、且つ降雨少

なく、空氣常に乾燥す。國土生産力に乏しけれども、綿は實に地方第一の富源にして、フェルガナ地方よりの産額殊に夥し。また草原には、馬、駱駝、羊の牧養盛んなり。住民はトルコ族多く、大抵ムハマド教を信ず。行政は、草原地方に草原部總督あり、トルキスタンにトルキスタン總督あり、又外カスピは後者の支配を受く、プハラ・ヒバは共に獨立の侯國なりしが、今はロシアに屬し、トルキスタン總督の支配を受く。

オムスクは、草原部總督駐在の地にして、シベリア鐵道の線路にあたり。タシケントはトルキスタン總督駐在の地にして、ベルシア・インドより、ロシアに輸入する貨物の通路に當り、絹織物、革皮綿などを産し、地方第一の都會たり。現時、外カスピ鐵道は、カスピ海の東岸より、東にメルブ・プハラ。

TRANS CASPIAN RAILWAY

帖木兒

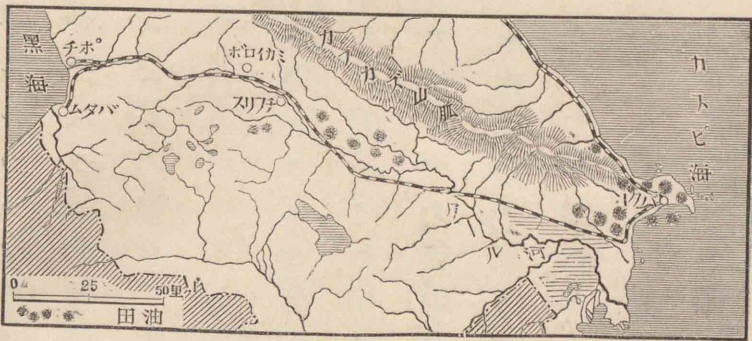
高加索

サマルカンドを経て、ここまで開通し、又支線は、メルブより南に、ヘラットの近傍まで敷設せらる。サマルカンドは往時チムルの都せし處にして、市内にその墳墓あり。

カフカズ

黒海とカスピ海とを連続せる陸橋をカフカズといふ。カフカズ山脈によりて、内外のカウカシアに分かる。

カフカズ山脈中央に横たはるを以て、土地概ね山地なれども、山脈の北部は草原よりなる。氣候は山脈の南部は、冬期暖くして、冬霜の害少なく、従ひて、農産、牧畜等の利あれども、内カウカシアは、大抵大陸性なり。地方の富源は、實に石油にして、世界に産する一個年の石油總額五十億ガルロンにつき、その過半はロシアより産出し、殊にカスピ海に瀕せるバク



カフカズ鐵道

1の附近よりは、多量に湧出し、カフカズ鐵道は、それを油槽車に移して、これをチフリリスの西なるミカイロポに致し、これより鐵道に沿ひ、輸送管線を通過して、黒海海岸なるバタムの貯油所に注流し、管にヨーロッパ及び我が國等へ輸出するのみならず、該地方の汽車を始め、カスピ海・黒海の汽船の如きも亦これを燃料とせり。

チフリリスは外カフカズの都會にして、クルル河の上流に位し、カフカズ總督ここに駐在し、商工業盛んにし

て、ベルシアとの取引あり。バクーは軍事上の要港にして、砲臺の設けあり。

亞細亞  
土耳其

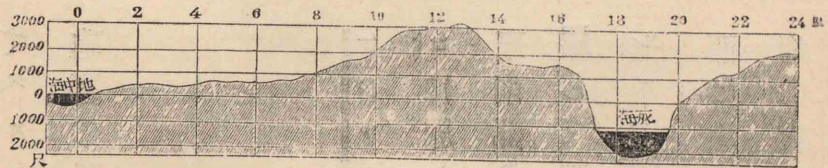
(四) アジア、トルコ

附サモス島

アジア、トルコは、アジアの西部を占む。全土ヨーロッパ、トルコに屬し、面積八萬餘方里、人口千六百餘萬あり。

東南部のメソポタミアは、チグリリス・エウフラトの兩河域に屬して、肥沃の平野なれども、その北部の一帶には、エルブールズ山脈のび亘り、アルメニア及びクルドの高原をなして、西の方、小アジア半島のアナトリア高原につづき、また地中海の東岸、シリアの地には、リバノン・アンチ・リバノンの並行

アジアトルコ



死海と地中海の高低

山脈南北に亘りてシナイ半島を起し、その東麓は漸次低く、ゴールの窪地となり、猶南に陥落し、死海に至りて、實に世界第一の低面をなせり。

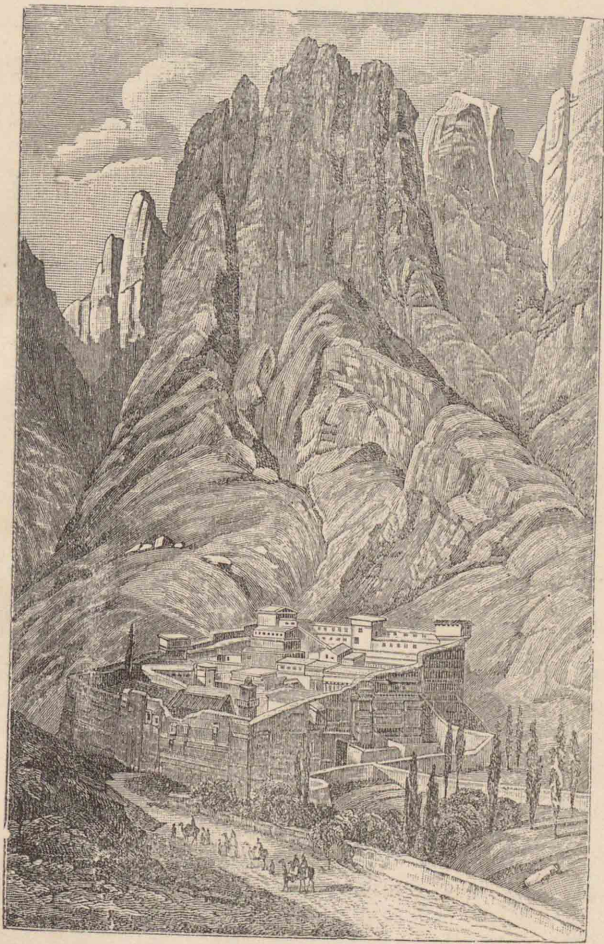
氣候は概ね大陸性にして、シリア・メソポタミアは、夏熱殊に強く、アルメニア高原は、冬寒頗る嚴し。農産は穀類・綿・無花果・葡萄等を主とし、牧養また盛んにして、アンゴラの羊毛・毛氈は、殊に世上に名高し。住民はトルコ族最も多數を占め、ギリシア族・アラビヤ族・ユダヤ族等また各所に散布す。信教は、ギリシア族のキリスト教を奉ずる外、大抵ムハメット教を信ず。

シニアはアラビヤの義にして

バグダードはチグリス河畔に位し、ベルシア及び黒海の沿岸地方と、隊商貿易の行はるる處たり。この南エウフラト河の畔りにバビロンあり、北のチグリス河畔にニヌアの城址あり。近傍のモスルは、始めてモスリン布を製織せし處なり。チグリス・エウフラトの兩河は、俗に双兒河と稱し、下流の落合ふ處より、河名をシト、エル、アラブといふ。アンチリバノン山脈の東南なるダマスクは、國內第二の都會にして、隊商貿易盛んに行はれ、人口二十五萬あり、この西海岸なるベイルトは、地方主要の輸出港にして、ダマスクとの間に鐵道の設けあり。その西北なるキプロス島はイギリスに屬す。ベイルトより南は、古へのいはゆるパレスチナにして、フェニキア・ユダヤの繁華は、既に遠き過去に屬し、ユダヤ



人、即ちジョーの如きは、今ははや、亡國の民として世人に厭忌せらるれども、嘗ては、商業に、將た技藝に世界に先鞭をつけ



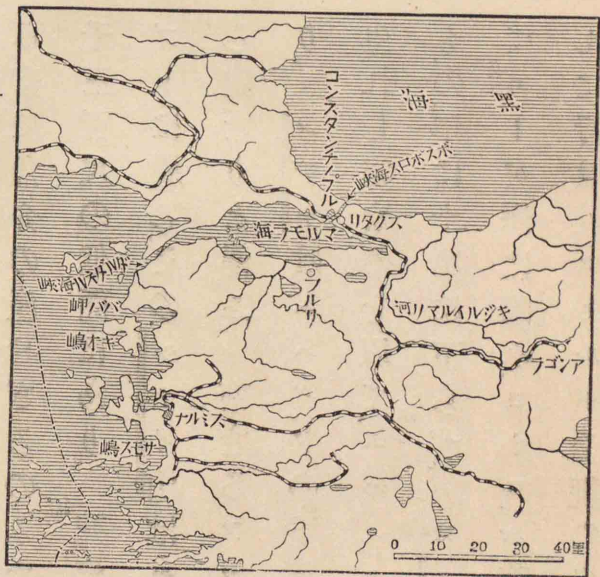
山イナシ

との分水界に立ち、往時ユダヤ國王の都せし處にして、今も

死海 海と 地中 ムは、 サレ、 イエル とす。 民族 たる

猶市況賑はしく、その郭外に、キリストの墳墓あり。その南なるベテレヘムはキリストの降誕地たり。死海は小湖にして、排水口のなきと、蒸發の劇しきとにより、頗る鹽分に富み、畜に魚介の産せざるのみならず、その水濱は、地中海より千三百尺の低面にあり。死海の南なる、シナイ半島はエジプトに屬し、そのシナイ山はモーゼが神より十誡を授かりし處なりと傳ふ。南なるアラビアの西岸に、メヂナ・メッカあり。メヂナはムハメドの墳墓のある處、メカはムハメドの生れし處なるを以て、ムハメド教々徒の諸國より參詣するもの、年に十萬に下らず。スミルナは國內第一の都會にして、エーゲ海に臨み、ヨーロッパ諸國の船舶寄港し、隊商貿易盛んに行はれ、スミルナ毛氈の名殊に著明なり。

(二)人口二十萬  
三いはゆる多島海



小アジア半島の西部

トルコ國、主權の下に獨立せし公國にして、面積三十方里、人口五萬五千あり。

小アジア半島西部の海上には、許多の島嶼、亂雜に散點して、ギリシアに連なり、恰も飛石の如き有様をなす、その中のサモス島は、もと、トルコ領なりしが、西曆千八百三十二年、イギリス・フランス・ロシアの保障により、ト

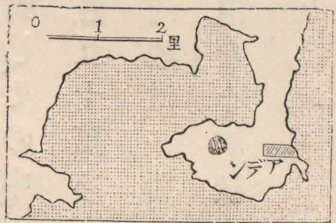
(五)アラビア

附オマーン王國

アラビアはアジア、トルコの南に突出せる世界第一の半島にして、イギリス領・トルコ領を除くの外は、皆酋長の支配に屬し、その中、オマーン王國最も廣く、面積一萬二千方里、人口百五十萬あり。

内地は、一帯の砂漠性高原よりなり、周圍に山岳を繞らし、湖沼なく、河流なく、雨水時に到れども、皆砂中に浸潤す。氣候は大抵暑さ強く、又無雨帯に屬するを以て、空氣常に乾燥し、沿海地方殊に劇し、されど、中央の高地は四時暖くして、國の樂土と稱せらる。産物はアラビア護謨、珈琲殊に名高く、中央のネザド膏地は馬・駱駝の牧養盛んに行はれ、アラビア馬

は古來國の特産たり。住民はアラビア族最も多く、大抵牧畜を主とし、又掠奪を事とする蠻民あり。宗教は概ねムハムド教を奉ず。



ソデア

ムスカットはオマーン國の首府にして、ペルシア灣に臨み、この國唯一の汽船寄港所なるが故に貿易盛んなり。アデンは、アデン灣に臨める海港にして、氣候暑く、平時の用水は、僅に雨水を貯へて、飲料に供する不便はあれど、東洋航路の重要な石炭積入所に當るを以て、船舶多く寄港す、本港の輸出にて、盛況を呈せるものは食鹽にして、その品質はヨーロッパ産に劣らず。全區イギリスに屬し、紅海の咽喉を扼するペリム島と共に、ボンベイ政廳これ

を管す。

### (六)イラン地方

バミル臺地の西南をイラン地方と稱し、ヘルシア・アフガニスタン・ベルチスタンの三部に分る。

### ペルシア

ヘルシアはイラン地方の西部を占め、面積十萬餘方里、人口九百五十萬あり。

地勢は北・南・西の三方に山岳を繞らし、中央より東は、砂漠性の高原、廣く全土の三分の二に亘り、高原の西部、土地僅に肥沃にして、耕作に適す。氣候は純然たる大陸性にして、海岸

波斯<sup>1</sup>

ヘルシア

地方の如きは、空氣常に乾燥し、夏期には、華氏の寒暖計百四五十度に昇ることあり。物産は、鴉片、葡萄を主とし、その産出の多きと、品質の佳なるを以て著はれ、ペルシア灣の眞珠亦よく世に知らる。また、羊の飼養は、古來有名なるを以て、毛氈、肩掛等の工藝品頗る精巧を極む。國人一般にムハメッド教を信じ、大に禮儀を重んじ、詩歌、音樂を嗜み、優美の風ありて、忍耐の氣象に富めども、又奢侈に流れ、婦人の如きは、貴賤となく、身に絹帛を纏ひ、富める者は、襪衣にも猶それを用ふるものあり。政體は、君主專制の獨立國にして、國法は、悉くコーランの經典によりて編制せられ、國民は、國王即ちシャー<sup>(SHAH)</sup>を以て、ムハメッドの教文を實行する代表者と信ぜり。兵備は二萬五千の陸軍常備兵と、海軍に二隻の小艦とあり。

テヘランは國の首府にして、エルブールズ山脈の南麓に位し、人口二十五萬あれども、夏期は、居民カスピ海の濱に暑を避け、市街淋し。イスバハン<sup>(ISFAHAN)</sup>は國の舊都にして、その南にあり。國の西北部に位せるタブリーズはロシアとの貿易盛んに行はれ、東北地方のメッシュド<sup>(MASHHAD)</sup>はムハメッド教々徒の靈地として知らる。

### アフガニスタン

アフガニスタンはペルシアの東に位す。ヒンヅークシ山脈は、域内を東北より西南に亘りて、地勢高峻且つ砂漠性なれども、河流の域は、土肥え、果穀の産豊かに、牧養亦甚だ盛んにして、羊毛の産多く、工業從ひて發達し、カンダハルの絹絨氈の如きは精巧を極む。政體は君主專制にして、アミル<sup>(AMIR)</sup>、即

二 アレキ  
サンデル  
大王の築  
きし古都

1 比耳路斯  
坦

ち王は國政を行へども、イギリスの干渉を受くる事あり。  
カブールは國の首府にして、六千四百尺の高地に位し、カブ  
ール河に臨みて、インドに通ずる要路に當れり。ヘラット及  
びカンダハル等の都會は、西部・南部に於ける貿易の要區を  
なし、ヘラットには、ムハメッド敎寺院の宏大なるもの多し。

1 1  
ベルチスタン

アフガニスタンの南をベルチスタンとす。地勢は四周に  
山岳を繞らし、内地は處々に山地あれども、大部は、廣大なる  
砂漠性の高原よりなり、寒暑共に強く、生産物また甚だ少な  
し。全部イギリスの保護に屬すれども、獨立ベルチスタン  
部・イギリス領ベルチスタン部・クタ及びボラン部に分れ、外  
に、インドの境に獨立の土蕃地あり。獨立ベルチスタン部

は國王、即ちハン、ケラトにありて、之を治めてあれども、イン  
ドより派遣せる、代理官との協商によりて政務を決するを  
以て、獨立は有名無實たるに等し、クタ及びボラン部、また純



峠 ン ラ ボ

然イギリス施政の下にあり。  
 ケラットは國の首府にして、インドよりヘルシアに通ずる要路に當る。ケタまた繁華の都會にして、イギリスよりの派遣兵ここに駐在す。ケタより、インドに通ずるポラン峠は、北なるロベル峠と共に、名高き坂路にして、ポラン峠には現時鐵道の設けあり。

印度<sup>1</sup>

(七)インド

附ネパール・ブータン

錫蘭<sup>2</sup>

インドは、古へのいはゆる、天竺にして、アジアの中央より、インド洋に突出して三角形の半島をなし、セイロン島と共に、面積二十八萬方里、人口凡そ三億あり。

地勢は高地平原高原の三帯に分れ、ヒマラヤ山脈よりなれる高地帯は、下層には熱帯の植物繁茂し、七千尺より一萬二千尺の間は灌木を生じ、漸次一萬五千尺の間は、雜草蘚苔となり、それより以高は、氷雪を以て蔽はる。高地帯の南は、ガング河・インドス河・ブラマプトラ河の三大流域よりなれる平原にして、大部は、土肥え、農産殊に夥しくして、實にインドの寶庫と稱せらるる所とす。平原の南は、土地再び高まり、ピンチア・東ガッ・西ガッの三山脈、三方を圍みてデカンの三角形高原をなし、その黒土層は、よく綿の栽培に適す。又東西ガッ山脈以外の地は、急にコロマンデル・マラバルの兩海岸に傾き、豊沃なる平原をなせり。  
 氣候は、土地の高低によりて多少の差異はあれども、大抵濕

乾熱の三期に分れ、三月より六月までは熱さ強く、六月より

十月までは、

西南氣候風

を受けて、降

雨多く、十月

より三月ま

での、東北氣

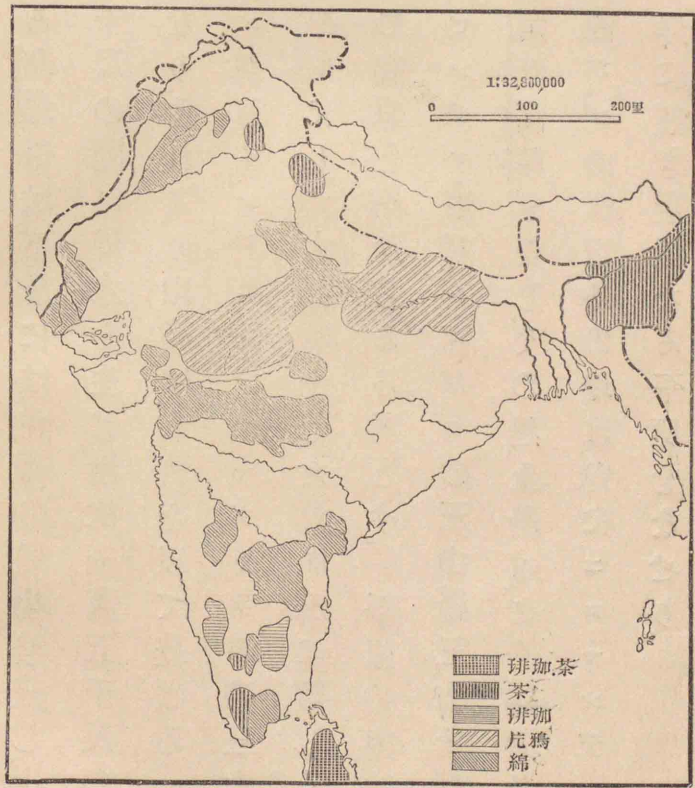
候風の時期

には、雨量最

も少なし。

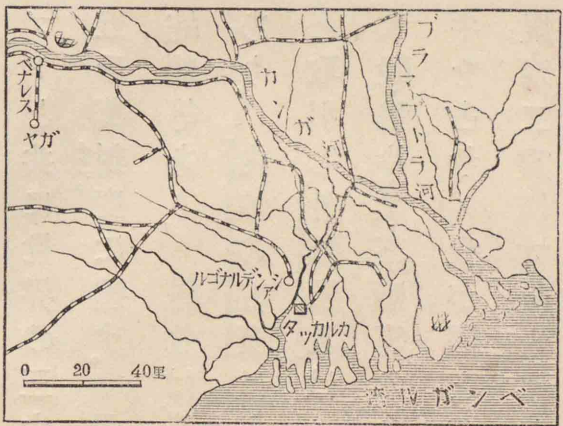
物産は、各種

共に豊饒にして、ヒマラヤ高原地方及び東西ガッツ山脈には、



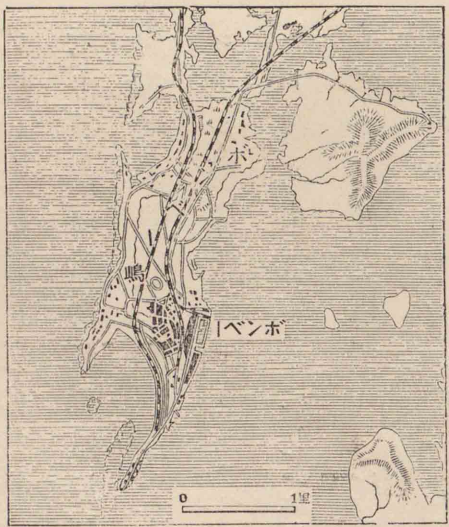
物産農のドンイ

チーク樹<sup>アカ</sup>榕樹<sup>ツ</sup>等の森林よく繁茂し、農産には米穀・綿・鴉片・甘  
 蔗・藍・茶・麻・珈琲等の産に富み、殊に綿は、アメリカ合衆國・エジ  
 プトと共に世界の三大綿産國と稱せられ、その量、年額四億  
 五千萬封<sup>バレル</sup>度に達す。動物は象・獅子・虎・犀・水牛等を始め、鱷魚・  
 蛇・蝸等あり。礦物は、鐵・石炭より、金・銀・金剛石・諸寶石等の産  
 あり。内地の商業は、年市を開きて、ペルシア・中央アジア等  
 と取引し、外國貿易はイギリス・支那を主とす。輸出品は綿・  
 米穀・鴉片・藍・茶・麻等の、食用品並に工業用原料品、殆どその過  
 半を占む。我が國との取引は、綿の輸出を主とし、輸入は石  
 炭・羽二重・燐寸最も多し。  
 住民は、種々の民族を交ふれども、その七割許は、カウカシア  
 人種の<sup>(HINDU)</sup>ヒンヅ族にして、體格強大、皮膚黒褐色を帶ぶ。大概



近附のそび及タ、カルカ

は農を事とし、禮儀を重んじ、性温良なれども、固く貴賤の階級を守り、互に婚嫁せず、交際を結ばず、また深くインド教を信じ、迷信者の中には、ガンガ河畔の靈地を巡禮して、餓死し、或は寺院に斷食して、死を待つを榮とする等の弊風あり、されば、イギリスは、西曆千八百五十八年に、この地を領せし以來、深く本土の拓殖に意を注ぎ、河川を疏して舟楫の便を開き、陸には約貳萬五千哩の鐵道を敷き、また學校を建て、教育の普及を圖れども、猶讀み書きを能くせざるもの多く、學齡兒童の就



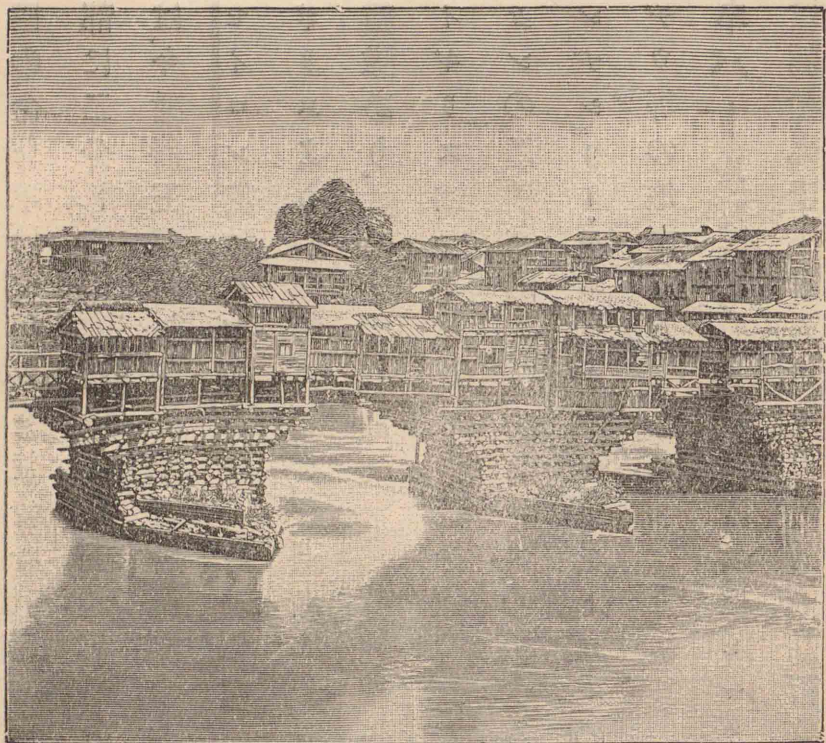
ボンボ

學者も、百分の二十二に過ぎず。セイロン島の民は、厚く佛敎を尊奉し、無數の伽藍、今も猶舊觀を改めず。カルカッタは大總督所在の地にして、人口百二十萬、ガンガ河の三角洲に位し、市街の建物は皆美麗にして、インドの「ロンドン」と稱すれども、土地卑濕に過ぎて、氣候の悪きと、飲料水の不良なるとにより、夏時流行病の繁殖地として世に知らる、市況は、綿麻の製造盛んにして、又鴉片、米、茶、藍等の輸出あり。ボンベイは人口八十萬、國の西部、同名島にありて、綿産地と



二人口五  
十餘萬

の交通は、棧道を架し、鐵道を敷けるにより、市況は紡績業最もよく行はれ、その海港は綿の輸出はもとより、スエズ運河の開けし以來、内外の貨物多く集り、支那との取引最も盛大なり、我が國の紡績絲は、原料をここより仰ぐ者多く、日本郵船會社の船舶、その漕運を取扱ひ、我が領事館あり。コロマ  
ンデル海岸のマドラス・ガンガ河流域のベナレス・パトナ・デ  
リー等も市況繁華にして、カシミルなるスリナガルの如き  
も、羊毛の産を以て知られ、その肩掛殊に世に名高し。コロ  
ンボはセイロン島第一の都會にして、西海岸に臨み、東西に  
往來する船舶は、石炭準備のためここに寄港し、帆檣常に林  
立す、島の中央なるカンチーは佛教教徒の靈地にして、地高  
きにより、夏時インドより外人の避暑するもの多し。



街市のルガナリス

全土殆どイギ  
リスの領地に  
して、インド・バ  
ルマと共にイ  
ンド帝國と稱  
し、イギリス國  
王は、インド皇  
帝の尊號を以  
て帝國に君臨  
し、政治は、大總  
督を置き、本國  
インド事務大

臣の命を承けて政務を執行せしむ。地方制度は直轄部・藩部に二分し、直轄部には知事・副知事、或は代理官を置き、藩部は、今猶藩王部内を治め、總督府派遣の駐在官政務を監す。セイロン島は、イギリス政府直轄の植民地たり。兵備は、イギリスよりの派遣兵八萬許、土人兵十五萬と、外に、東インド艦隊あり。

イギリスは、かくインド大部を領すれども、猶チパール・ブータンの二獨立國、及びフランスの領するシンドルナゴル・ボンヂェリ・マエ・ヤナオン・ポルトガルの領するゴア・ダマン・ヂウ等の地區あり。

ネパール及びブータンは、共にヒマラヤ山脈中に位し、一は面積九千方里、人口二百萬乃至五百萬と稱し、他は、面積二

千八百方里、人口二萬と稱せらる。この二國は、もと、支那に屬せしを以て、今猶西藏と交通するのみ。

(八)インド支那半島

インド支那半島はアジアの東南部に位せる、いはゆる後インド半島の一帯を稱し、バルマ海峽植民地・シム・フランス領インド支那の四部に分る。

バルマ

バルマはインドの東に位し、上バルマ・下バルマ・東バルマに分る。全土、二千四五百年前の建國にかかる王國なりしが、西曆千八百二十五年、下バルマ先づイギリスに占領せられ、

その後、千八百八十六年、上バルマ・東バルマまたその版圖に歸せり。

大部は山地なれども、イラワヂ河・サルウン河の流域は農産に富む。氣候は暑さ強く、大抵乾濕の二期に分れ、五月より十月までの間に霖雨あり。物産は米・綿・藍・石油・護謨・材木・眞珠貝・寶石・虎皮・水牛皮等を主とし、また水牛は、到る處に貴重せられ、農家にては、財産の多少は、全く水牛の多少に比例し、多きものは數百頭を飼養せり。

ラングンは下バルマ第一の都會にして、イラワヂ河の三角洲に位し、市況は米の輸出夥しく、我が國人のいはゆるラングン米は、ここよりの輸出にかかる。ここより、汽船・汽車は、北へアワを過ぎ、マンダレに至る。マンダレは上バルマ第

一の都會にして、往時は市街盛んなりしが、水陸交通の便開くるに従ひ、今はラングンと盛衰その所を換へぬ。バモはイラワヂ河の航行極限に位する小都會にして、今は僅かに、支那との貿易行はるれども、支那・シムに通ずる、鐵道の竣工するに際せば、貨物の繼立場として、市況一層繁華なるに至らむ。

### 海峽植民地

マライ半島の北部はシムに屬すれども、南部はイギリスの勢力下にありて、大抵はその植民地、もしくは保護地に屬す、



海峽植民地

卑南

その植民地は、マラカ及びシンガポール島、ピナン島よりなれる、いはゆる海峡植民地にして、保護地は、ペラ・セラシオン、

ネグリ、センピラン、パハン等の酋長國

がなせるマライ聯邦を稱す。

(FEDERATED MALAY STATES)

シンガポールは、人口二十五萬、シンガ

ポール島の南端に位し、植民地政廳所

在の地にして、總督ここに駐在す、この

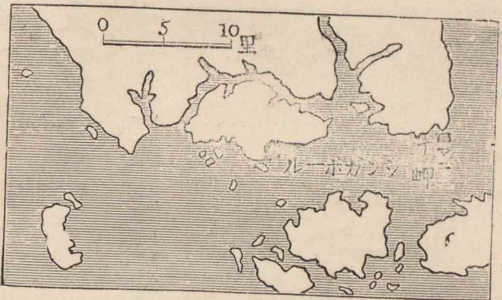
地は、東西兩洋に通ずる咽喉に當るを

以て、貨物の集散速く、輸出は海峡植民

地より出づる錫、金、砂糖、珈琲、香料、護謨

椰子等を主とし、我が國より、石炭、燐寸等を輸入す。この地

また、「人種の博覽會」ともいはれ、マライ人、支那人はもとより、



ル - ポ ガ ン シ

新嘉坡

二萬噸に位す  
一年に第

あらゆる世界の各人種、大抵ここに集まらざるはなく、我が國人もまた在留し、ピナン等の地にあるものを合すればその數、千人以上に達し、領事館の設けあり。

シム

二種の名に基く  
種シヤモ

シムは、バルマとフランス領インド支那との間に挟まれる、獨立の王國にして、面積凡そ四萬方里、人口六百萬あり。

地勢は、東部西部に山岳を充たし、中央はメナム河、北より南

に注ぎ、その中流以下は、沃野遠く連なり、シム灣にかけて、一

の丘陵を見ず。氣候は全部熱帯に位せるにより、炎熱甚だ

しく、大抵乾濕の二期に分れ、十月より二月までは、日中の温

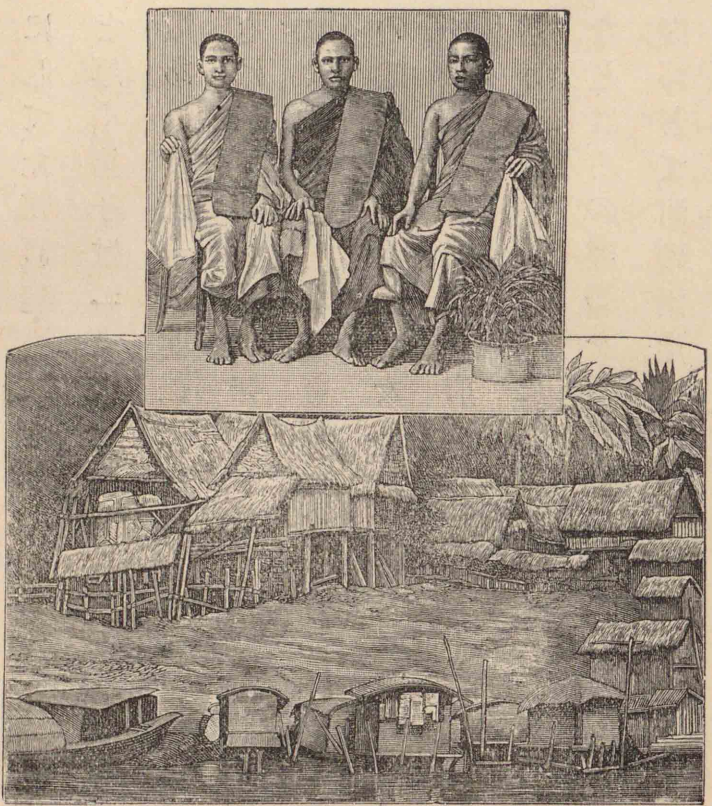
度華氏の九十度に達し、三月より五月に至る間は百十五度

に昇り、低きも猶九十度を降らず、外人の風土に慣れざるも

二三千萬

の、陰雨の候、熱病にかかるもの多し。  
 物産は米を第一とし、品質は劣れども、年内二回の收穫ありて、輸出品總價額の八割を占め、シム米とて、我が國の市場にも取引せらる、米につげる主産物はチーク材にして、その質艦船用として良好なるを以て、世界に貴重せらる、外に、生絲、胡椒、護謨、黃蠟、烏木、紫檀、象牙、犀角等、また皆主要の輸出品たり。輸入は金巾、更紗、毛織物、紡績絲等とし、我が國よりは、現時僅に燐寸、陶磁器、金巾、洋傘、靴類を輸入すれども、彼我の交通、漸次頻繁なるに至らば、將來我が製品費消の一大華客たるを失はざるべし。

國民は、大抵蒙古人種、マライ人種にして、性溫和なれども、一般に怠惰にして、賭博を好み、飲酒に耽り、政府また賭博を公

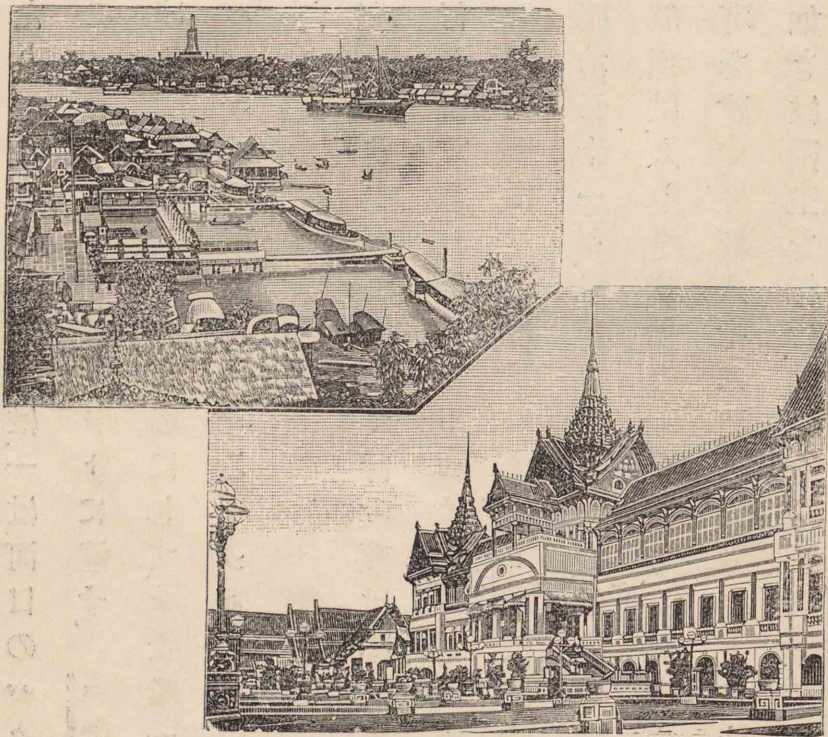


僧侶と民屋

許し、税金をとりたててその歳入を補ふ従ひて、都會には、賭場を設け、大なるものなるものに、常に二千人許の人民集まり、互に勝負を争へるさまは、實に他國になき例とす。國民生活の程度甚だ低く、家屋は僅に日光を防ぎ、雨露を凌ぐに止まり、

二入口三  
十萬うち  
に支那人  
十萬人許  
あり

食物は椰子・檳榔子・甘蔗<sup>バナナ</sup>等を食し、風俗また多くは裸體・跣足にして、ただ腰卷・乳被<sup>カン</sup>を纏ふのみ。宗教は、佛教を信ずること厚く、男子は、一度僧とならざれば、國民たるの資格なき習慣ありて、二十歳前後に至れば僧侶となり、七八箇月より多きは二年間、村里に托鉢したる後還俗し、國王と雖も、即位前には必ず僧となるを例とす、されば、到る處、寺院の多きと、その建物の宏大美麗なるとは、皆外客の驚く所たり。  
バンコクは國の首府にして、メナム河に跨り、通商の要路に當り、市況盛んに、殊に王宮・官署皇族の邸宅、無數の寺院・高塔などは、その建築を西洋風に倣ひ、結構華麗を極む、この地、又浮郭として、河の兩岸に船住家屋ありて、住民約三分の一は、生涯をここに送る、その構造は、チーク材にて基礎を作り、その



王城とメナム河畔

上に、柱を樹て、屋根を覆へるものにしあれば、風荒み、波高き日は、揺々として波間に漂ふ舟の如く、夜間これを望めば、輝き亘る萬燈は、波に映じ、又四時螢火のこれを助くるありて、實に府内第一の光景

たり。ここより鐵道は、一は、河口のバクナムに至り、他は、北にアユチアを経てコラトに達す。コラトはバンコクにつける國內第二の大市場にして、また唯一の生絲集散地たり。バンコクの東南に位せるチャンタブンはフランスの租借地たり。

政體は君主專制にして、行政權は國王内閣と共にこれを執行し、王族甚だ權力ありて、大抵内閣各部の長たり。陸軍は常備兵僅に五千に足らず。海軍は二十二隻の小軍艦あり。明治二十一年、我が國と通商條約を結びたり、されど、個人の航通は、久しき以前より始まり、一時我が商人渡航して、日本町を建て、在留人七八百人に及びしことありて、山田長政の如きは、國王を輔け、内亂を鎮め、封侯の榮爵をさへ賜はりし

ことあり。現時我が國人多く在留し、バンコクには、公使館、領事館あり。

フランス領インド支那

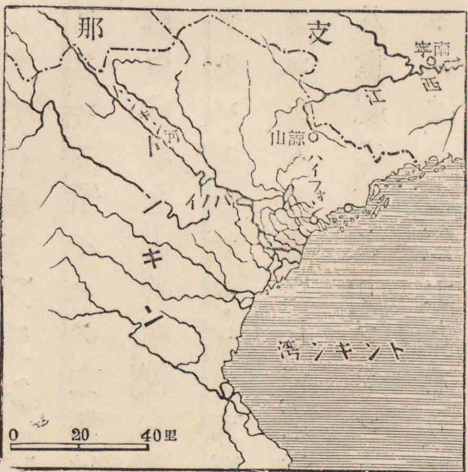
フランス領インド支那はインド支那半島の東部、メコン河以東の地を占め、面積六萬餘方里、人口二千萬あり、分ちて、トンキン、アンナム、コチ支那、カンボヂの四區とす。全土もと、アンナムの地にして、東洋屈指の專制王國なりしが、西曆十八世紀の末より、フランスに侵略せられ、現時コチ支那、トンキンは、その領土となり、アンナム、カンボヂは獨立の王國なれども、これまたフランスの保護を受け、本國は、財政上のことにてまで商議の權を有し、獨立は殆ど有名無實たり。山岳域内を南北に延び亘れども、コチ支那は平坦にして、ト

東京  
安南  
交趾支那  
二南瓜を  
カボチア  
といふも  
この國の  
名に基く

三下流を  
カンボヂ  
ア河とい  
ふ

河内<sup>1</sup> 西貢<sup>2</sup> 海防<sup>3</sup>

ンキン河・メコン河の流域と共に穀産に富む。氣候は暑さ強く、大抵乾濕の二期に分れ、六月より九月にかけ降雨多し。米は地方の主産物にして、我が國人のいはゆる南京米、即ちトンキン米、サイゴン米、殊



近附のそび及イノハ

のユエ、ユチ支那のサイゴン、カンボヂアのプノムベンは、皆地方の首府にして、トンキンのハイフォンまた海港たり。その

ちトンキン米、サイゴン米、殊によく我が市場に知られ、また森林よりはチーク材を出だし、山間肥沃の地は、胡椒、胡椒、椰子等を産し、アンナムの肉桂わけて世に名高し。トンキンのハノイ、アンナム

中、ハノイは、政廳所在の地にして、總督ここに駐在し、サイゴンまた要害の地なるを以て、艦隊を置き、陸兵を分屯せしめて防禦に備ふ。

住民は、大抵蒙古・マライの雜種民族にして、性一般に怠惰遊樂に耽り、忍耐の氣象に乏し、支那人の移住して、勞役に服するもの多く、商權も亦全くその手中にあり。宗教は、佛教を奉ずること厚く、皆競うて寺院を壯麗にし、アンナム國王の宮殿の如きは、金銀を以て鏤めたる佛像を城門に安置し、結構華美を極む。

馬來群島

(九) マライ群島

マライ群島



マライ群島は、また東インド群島と稱し、マライ半島の南より、東のかた、バプア島までの間に散在し、北は我が臺灣の南に及ぶ。分ちて、スマトラ島・ジャバ島・ボルネオ島・スル諸島・フィリピン諸島・セレベス島・チモール島及びボルネオ諸島とし、またボルネオ・スマトラ・ジャバ・セレベス等を大スンダ諸島・チモール島及びその西の數島を小スンダ諸島ともいふ。群島の大部はオランダに屬し、その他は、アメリカ合衆國・イギリス等に分屬す。

地勢は火山質の山岳多く、殊にジャバ島には、許多の活火山ありて、往々震害を蒙ることあり、嘗て、西曆千八百八十三年に於ける、スンダ海峽なるクラカタウ島の噴火の如きは、歴史以來未曾有の大爆裂をなし、島の北部の大半は、全く空中に

吹き飛ばされ、その火山灰は、遠く世界を一週し、全地球の人、一時日光の赤色なるを認めしことあり。

土地熱帯に位すれども、各島相距たれるにより、海氣常に炎熱を柔らげ、濕地を除くの外は、大抵健康に適し、降雨また多し。物産は農産殊に豊饒にして、米・甘蔗・煙草・珈琲・甘蔗等に富み、鑛産また著名なり。

住民の多くはマライ人種にして、大抵は農を事とし、内地には、人肉に舌を鼓するもの、又邊海には、海賊を業とする蠻民あり。宗教は概ねムハンマド教を奉じ、蠻民は禽獸草木の類を崇拜す。

スマトラ島はマライ半島の南に位し、面積二萬五千方里、人口三百餘萬あり。島の東南部より西岸へかけての大部

はオランダに屬し、北部は許多の部落に分れ、酋長に屬す。物産は樟腦・胡椒・黄蠟を主とし、また石油の産出は、年額四千萬ガルロンを出だして、ロシア・アメリカ合衆國・オーストラリアにつき、錫の産はバンカ島・ブリツン島よりの採掘殊に夥しく、オランダ植民地が、マライ半島につぎて、錫の産額世界第二に位するは、全くこの二島よりの産出多量なるに由り。

**ジバ島** はスマトラ島の東南に位し、面積八千五百方里、人口二千九百萬ありて、全部オランダに屬す。物産は米・珈琲・甘蔗・幾那・胡椒・茶等に富み、殊に米は品質佳く、ジバ米とて、常にヨーロッパの市場に、我が國のと競争し、甘蔗より製する砂糖は年額七十萬噸以上を出だして、世界の最上位を占め、珈琲は年額十四萬噸ありて、ブラジルにつぎ、世界第二に位し、また、幾那は世界産額の二分の一を有す。バタビヤは本島の首府にして、總督駐在の地たり、ここより我が國へ砂糖を輸出し、我れより綿布・綿絲・燐寸・硝子器・紙等を輸入す。この島も亦石油の産に富み、良質の聞えあれども、採取未だ著しからず。

(二) 舊名を  
ジャガツ  
ラといふ  
ラジャガ  
タ芋の名  
これより  
起る

本島

(三) 面積約  
五萬方里  
人口百七十  
十萬

**チモル島** はフロレス島の東に位し、東半部はポルトガル、西半部はオランダに分屬し、物産はただ黄蠟あるのみ。本島とジバ島との間なる、バリ・ロンボク・スンバワ・フロレス・スンバ等の諸島は小スンダ諸島に屬し、皆オランダの領土たり。**ボルネオ島** はスマトラ島の東に位す。全土十分の七はオランダに屬し、東北部のイギリス領北ボルネオ、西北部の

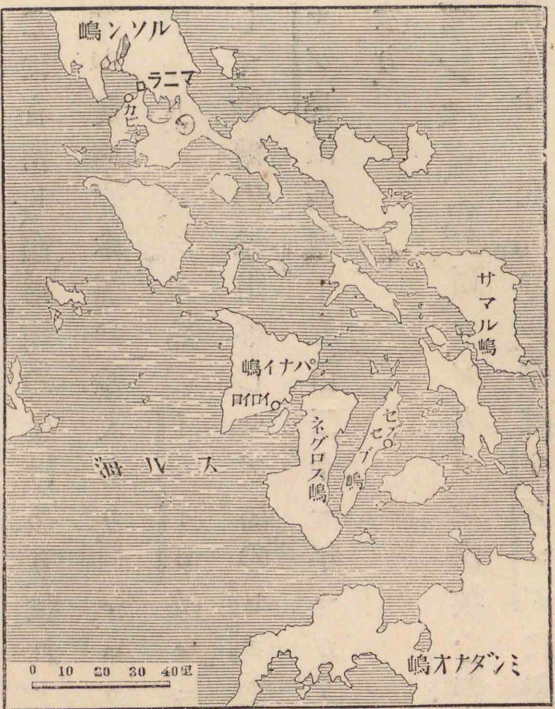
ブルネイ・サラワクは、共にイギリスの保護を受く。物産は燕巢・樟腦・金剛石・金・鐵・石炭等を出だし、イギリス領北ボルネオは、砂糖・珈琲・煙草の栽培に適す。

**スル諸島** はボルネオ島の東北に位す。全部イスパニアの領地なりしが、西暦千九百年、十萬弗にてアメリカ合衆國に讓與せり。

比律賓諸島

**フリピン諸島** はボルネオの東北に位し、北はバシ海峽を距てて我が臺灣に對す。全部ルソン島・ミンダナオ島等を始め、大小二千許の島嶼よりなり、面積約二萬方里、人口八百萬あり。物産は煙草・麻・砂糖・コブラを主とし、殊にマニラ煙草は世上に有名なり。

この諸島は、西暦千五百二十一年、マガリアエンスによりて發



島諸ンビリフ

見せられ、その後、イスパニアのフィリピン二世、全島を征伐せしより、その名をとりて本島に命じ、久しくその領地なりしが、アメリカ合衆國と戦争の結果により、アメリカ合衆國これを占領せり。我が國との交通は、豊臣時代の始めより行はれて、原田孫七郎の如き、島原の城主、松倉重政の如き、二三の邦人、ことを貿易に托して、ひそかに覬覦の心をいだきしものありき。

マニラは全島の首府にして、人口三十五萬、ルソン島の西南海岸に臨み、貿易の盛んなること南洋第一たり、我が國人ここに在留し、領事館の設けあり、我れより石炭・燐寸・綿織絲・甘薯・甲斐絹洋傘等の輸入あり。マニラの近傍にカビテの軍港あり。バナイ島のイロイロはマニラにつげる貿易港にして、砂糖の輸出夥し、セブ島のセブまた貿易よく行はる。セブ島は西曆千五百二十一年、マカリ、エンスの殺されし處なり。

セレベス島は、マンカッサル海峡を距ててボルネオ島の東に位す。北部の一半はオランダに屬し、南部は土人の部落に分れて獨立す。物産は珈琲・燕巢・煙草、及び金石炭等を主とす。

モルッカ諸島はセレベス島の東に位し、丁子<sup>チヨウシ</sup>・肉荳蔻<sup>ニクシュウコウ</sup>・肉桂<sup>ニクケイ</sup>等に富めるにより、又スパイス島と稱す、全部オランダに屬す。

Oceania { Australia, Polynesia, Melan. } 南洋諸島

### 大洋洲

大洋洲は、マライ群島より東南へかけて、大平洋の一面を點綴する大小無数の島嶼、及びオーストラリア大陸を總稱し、全部我が國の南に位せるにより、マライ群島と共に、或は、單に、南洋諸島ともいふ、大別して、(一)オーストラリア聯邦、(二)ポリネシアの二部とし、面積六十萬方里、人口六百萬あり。これ等の群島は、往時蠻族の部落なりしが、西曆十六世紀の頃、イスパニアがフィリピン諸島を占領せしより、イギリス・フランス・ドイツ等の諸國は、競うて領土を分割し、現時二三の諸島を除くの外は、豆大の孤島も、外國の所屬たらざるはななく、ヨーロッパ人・アメリカ人また、各島に住移してあらざるは

なし、我が國との交通は、日猶淺く、從ひて、貿易も未だ盛んならざれども、航通の容易なると、我が國人に適する事業あるとにより、出稼するもの漸次増殖し、日本郵船會社の船舶また、この方面に航行を開始せるにより、將來彼我の關係益頻繁なるに至らむ。

### (一)オーストラリア聯邦

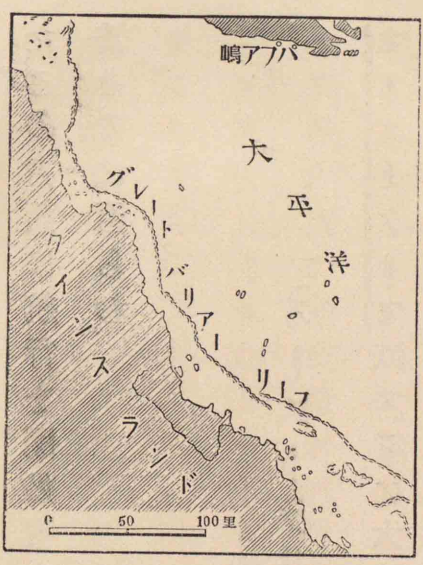
オーストラリアはアジア大陸の東南に位する世界最小の大陸にして、域内をビクトリア・ニュー・サウス・ウェールズ・クイーンズランド・サウス・オーストラリア・ウェスト・オーストラリアの五州に分ち、その東南なる、タスマニア島と共にオーストラ

Plain 1/4

N. 10-9 S.  
4-9 W.  
S. 西 子 下  
中 秋 火 海 和 地 夏  
地 地 風 刺 時 中 央 印 印  
128°F = 53°C

オーストラリア聯邦

リア聯邦を組織し、面積合せて凡そ五十萬方里あり、我が國人の略して濠洲といへるものこれなり。  
沿岸は、オーストラリア大灣、カーペンタリア灣等の外、屈曲



フリリ、リアリバ、トレグ

らず。地勢は、低山脈東岸と並行して南北に亘り、その南端は、西に曲りてオーストラリア、アルプ山脈を起せる外、連脈の西斜面は、漸次中央部へかけて低原となり、その西部は、再

甚だ少なく、加ふるに、トレス海峽よりハービー灣にかけて、千二百海里の沿海には、廣き處、十數里に亘るグレートバリアリアス、リーフ斷續して、航海の危険少なか

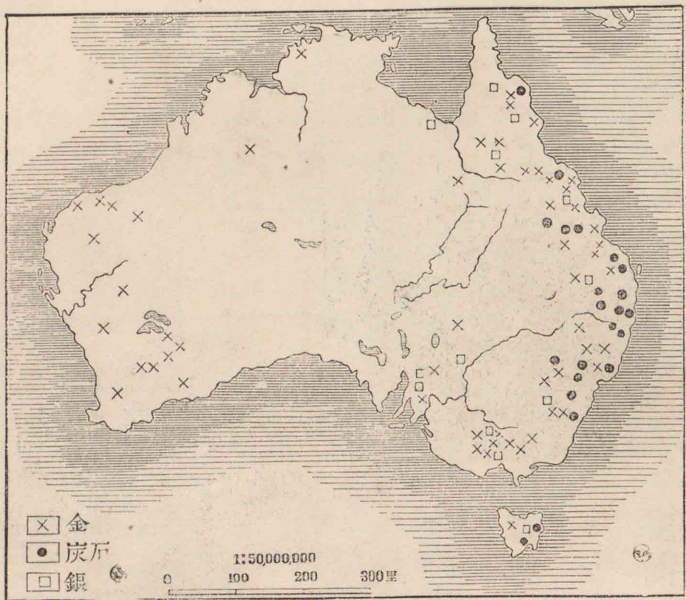
び高原をなせども、全土四分の三は大平原に屬す。河流は、東南部のマールレー河のみ、獨り舟運の便あれども、その他は、大抵雨ふれば、河水俄に漲り、平時は、鹽原、砂漠の中に、その流路を失ひ、たまたま海に達するものもあるも、舟楫を通ぜず。氣候は、北の半部は、熱帯に位せるを以て、十月より三月に至る夏季と、四月より九月に至る冬季との二季あるのみなれども、南部は四季ありて、冬時の溫暖、最もよく人身の健康によろし、されど、中央部は海に遠ざかりて、海風を受けざると、炎熱の劇しきにより、降雨少なく、空氣常に乾燥して、處々に砂漠性の荒原をなし、往々鑽井を穿ちて、地下水を取るものありて、一般に水に乏し、されば、このあたりの土人、原野を行きて、疲勞を覺ゆれば、土を掘りわけ、腹を蔽ひてその渴を

オーストラリア聯邦

○牧羊の  
數凡を八  
千頭に  
及ぶ

醫すといふ。物産は、從來礦物の外、穀物なく、果樹なく、動物の如きも、世界に稀なるカンガル(KANGAROO)、ウオムバット(WOMBAT)、アラチバス(PLATYPUS)、チンゴ(DINGO)等の奇獸のみなりしが、外國人の移住と共に、その他の各種も、皆よく生育し、農産は小麥・玉蜀黍・葡萄・綿・甘蔗等を主とし、小麥の産額最も夥し、又原野には、降雨の不順なるにも拘らず、ユーカリ樹と稱する護謨樹繁茂し、その常緑林中には、牧草一面に生ぜるを以て、牧羊甚だ盛んに行はれ、羊毛の産額は一ヶ年六億封度以上に達して世界第一に位す。鑛産また甚だ豊かにして、金の産出殊に夥しく、一ヶ年の産額凡そ三萬五千貫匁に達し、銀はアメリカ合衆國・メキシコに次ぎ、石油・石炭・銅の産出また多量にして石油の如きは、ロシア・アメリカ合衆國に次ぎて、世界第三に位す。我が國との

維多利亞  
鉄道  
模範電線



オーストラリアに於ける金・石炭・銀の産地

取引は、米・絹布類・麥稈・眞田・竹・籐・竹材・燐寸・華筵・陶器・樟腦等を輸入し、羊毛・ビスケット・獸骨・牛酪等を輸出す。内地の交通は、水利の不便はあれども、道路はよく開け、また鐵道は、各地の都邑・鑛山・牧場等を連絡して、今はその延長、約一萬五千哩に達す。外國との交通は、ヨーロッパ・アメリカ及びイギリスの領土・植民地との間には、定期の汽船常に往來し、我が國との



オーストラリア黒族とその家屋

を以て常とし、家屋としては、夏は枝葉の密生せる樹木を列

は、黒人種の一派なるオーストラリア黒族にして、丈高く、肉瘡せ、皮膚褐色を帯び、毛髪縮み、男女裸體

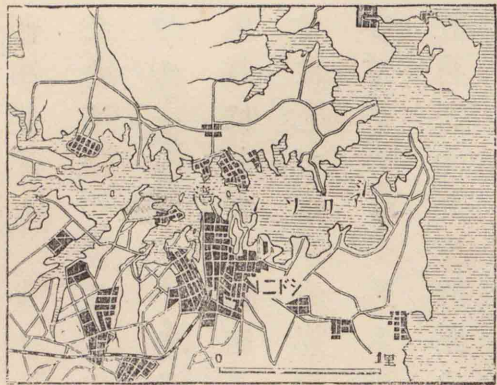
AUSTRIAL NEGRO

の間には、日本郵船會社の船舶ここに定航し、また海底電線は、ジバを経てアジアに、インド洋を経てアフリカに、大平洋を経てアメリカに通ぜり。土人

べ、冬は樹皮を剥ぎて小屋を造り、その前に火を焚きて、寒氣を防ぐに止まり、好んで、禽獸蟲魚を生食し、山野に獵し、鬭争を事とする外、一定の職業なき蠻族にして、今は、その數、僅に六萬より八萬までに減ぜり。外國人のこの地に到りしは遠き古へに屬すれども、西曆千六百四十四年に、西北岸がタスマン氏により、千七百七十年に、東岸がクック氏によりて知られしを始めとし、今より百餘年前には、猶イギリスが罪人を放流せしに止まりしが、爾來漸く一般人民の移住を許せしより、俄に拓殖の歩を進め、今は全土の人口約三百八十萬あり。住民はイギリス人の子孫多く、生業は、牧羊、採鑛、農業を主とし、イギリス語を國語とす。宗教はキリスト教の新派最も盛んに行はる。全部イギリスに屬し、政治はオース



トラリア聯邦總督を以て一切の軍政民政を統べしめ、内閣ありて政務を分掌し立法權は兩院制の聯邦議會に屬す。  
**ビクトリア州**はオーストラリアの東南部を占む。この地は西曆千八百三十五年頃には、**ニー、サウス、ウェールス州**の一部として、人口僅に二萬許なりしが、千八百五十一年に獨立の植民地となり、今は人口百二十萬を有す。**メルボルン**は聯邦政府所在の地にして、南部の海岸、**ヤイラ河**に跨り、人口五十萬に近く、大學、圖書館等、宏大なる建物あり、取引は羊毛、金を主とし、市況の盛んなること、オーストラリア第一たり。**ギーロン**は**メルボルン**の西南に位せる良港にして、羊毛の輸出盛んなり。  
**ニュー、サウス、ウェールス州**は**ビクトリア州**の北に位す。



この地は、西曆千七百八十七年に成立したる、オーストラリア最舊の植民地にして、今は人口凡そ百四十萬あり。**シドニー**はオーストラリア最舊の都會にして、人口凡そ五十萬を有し、**ジャクソン灣**に臨み、羊毛の輸出夥し、我が國の總領事ここに駐在す。  
**クインズランド州**は**ニュー、サウス、ウェールス州**の北に位す。此地は、西曆千八百四十二年、一般人民の移住を許し、その後、十七年を経て獨立の植民地となり、現時人口五十餘萬を有す。**ブリスベイン**は州内第一の都會にして、東南岸に臨み、羊毛の輸出あり。こ

この南のサウス、ポートは、バンクーパーに通ずる海底電線の起點に當れり。東北海岸のタウンズビルには、我が國の領事館あり。ヨーク半島の北なる木曜島には、眞珠貝採取のため、我が國人の出稼するもの凡そ六百人に達せり。

サウス、オーストラリア州は、本島の中央を南北に貫ける地にして、人口四十萬に近し。アデレードは州内の大會にして、東南海岸に臨み、羊毛・小麥の輸出あり。

ウエスト、オーストラリア州は、オーストラリアの西部、東經百二十九度以西の全部を稱し、人口二十萬あり。ハースは州内第一の都會にして、西南の海岸に臨み、内地はクールガルヂ、及びマーチソンの大金田と鐵道を通ず。その外港のフリーマントルは、アフリカに通ずる海底電線の起點に

當れり。

タスマニア州は、バス海峽を距ててオーストラリアの東南に位す。内地は山岳起伏し、その間に許多の湖水を湛へて、風光明媚なるが上に、氣候溫和にして、空氣清涼なるを以て、南半球の中にて、最も人身の健康に適する所なりと稱せらる。この地は、西曆千六百四十二年、タスマン氏によりて發見せられ、千八百四年イギリスの植民地となり、現時人口約二十萬あり。ホバートは州内第一の都會にして、羊毛・金・小麥の輸出あり。

## (二) ポリネシア

ポリネシアは大平洋中に散在せる許多の島嶼を總稱し、また分ちて、メラネシア・ミクロネシア・ポリネシア本部の三部とす。

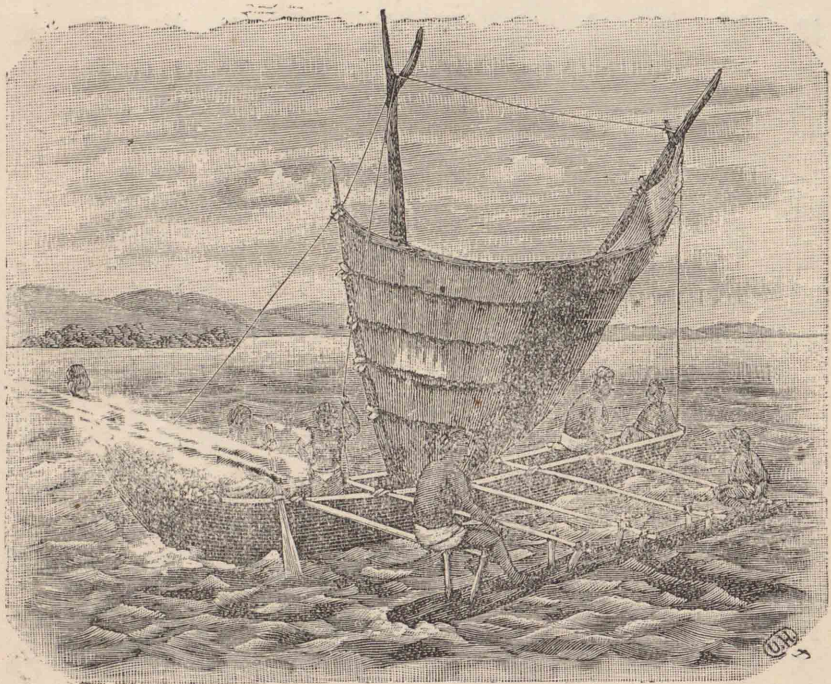
### メラネシア群島

メラネシア群島は、バプア島よりフィジー諸島に至るまでを稱し、バプア島・ビスマルク諸島・ソロモン諸島・新ヘブリッド諸島・新カレドニア諸島・ロアヨータ諸島・フィジー諸島等をその主島とす。

この群島は、地體の構造、大抵火山質よりなり、またみな山岳に富み、バプア島のオーウン、スタンリー山脈中の、ピクトリア峯の如きは、海拔一萬三千尺に達せり。氣候は、熱帯に位置すれども、海風よく炎熱を調和するにより、暑さ烈しからず、

（二）黒人島の義

（二）バプア島の義  
とはマブア  
語にマブ  
イにマブ  
の縮にマブ  
義にマブ  
人しマブ



バプア人と獨木舟

降雨また甚だ多く、從ひて、地味肥沃にして、高地には森林繁茂し、低地には農産夥し。住民は、大抵黒人種の一派なるバプア人にして、常に麩果(BREAD FRUIT)、甘蕉、椰子等を食し、海を航るには、獨木舟を用ふる未開の民なれども、手工に

長じ、又彫刻に巧みにして、棍棒・槍・弓・矢などの武器は、蜜にその製作の美麗なるのみならず、中にはこれに種々の彫刻を施し、精巧驚くに堪へたるものありて、南洋諸島中最も進歩せる蠻族なり。

**パプア島** はまた新ギネア島とも稱す。モルッカ諸島の東に位し、面積はボルネオ島より大きく、人口八十萬あり。島の西部はオランダ、東南部はイギリスの植民地に屬し、東北部は、カイゼル、ウイヘルムランドと稱してドイツの保護を受け、また内地は、許多の蠻族に分れて獨立す。輸出はコブラ・眞珠・海參を主とし、また極樂鳥の産あり。

**ビスマルク諸島・ソロモン諸島** (BIRD OF PARADISE) は、共にバプア島の東北に散點し、前者はドイツに屬し、後者はイギリス・ドイツに分

屬す。

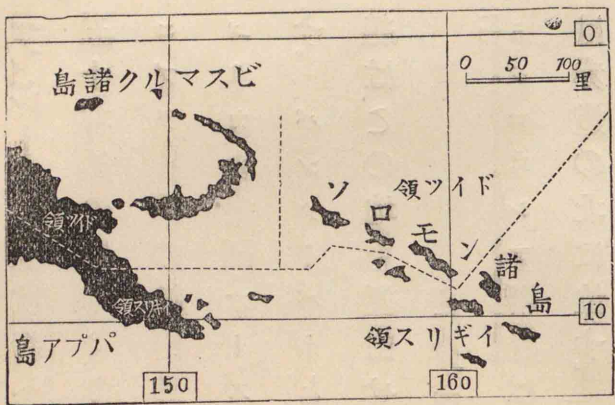
**新ヘブライツ諸島** は、ソロモン諸島の南東に位し、イギリス・フランス合同の保護を受く。

**新カレドニア諸島・ロアヨー**

**テ諸島** は、新ヘブライツ諸島の

西南に散在し、共にフランスに屬す。新カレドニアは、名高き白銅

の産地にして、一ケ年の採鑛額十  
四萬噸に達し、我が國人の出稼し  
て採掘に従事せるもの千人以上  
あり、珈琲・甘蔗また殊に良質の聞  
あり、**メラネシア** 島の西南海岸に臨める海港にして、また



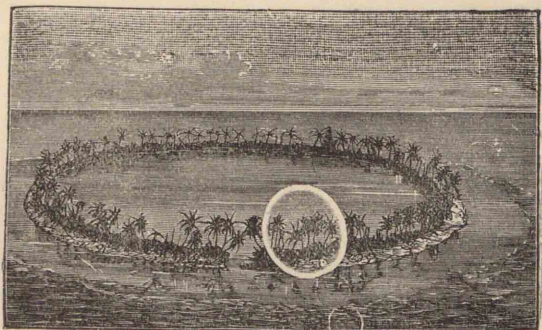
島諸クルマスビ及びンモロン

フランスの大太平洋艦隊の根據地たり。  
**フィジー諸島**は、新ヘブライヅ諸島の東方に位し、大小二百五十有餘の島嶼よりなる。全部イギリスの植民地に屬し、**コブラ**・砂糖の輸出夥し。スバは島中第一の海港にして、アメリカ合衆國・オーストラリアを往來する船舶ここに寄港す。バンクーバーとオーストラリアとを連絡する海底電線は、この地を經由せり。

ミクロネシア群島

ミクロネシア群島は、メラネシア群島の北方にありて、大部は赤道の北に位す。ジルベルト諸島・マルシャル諸島・カロリナ諸島・マリアナ諸島を主なる島彙とす。諸島の地體は大抵火山質もしくは珊瑚質よりなり。氣候

の義  
 二小島洲



島 瑚 珊

は、熱帯に位すれども、涼風絶えず海上より吹きて炎熱を調和す。土人は、ポリネシア族(POLYNESIAN)とバプア人との混合種を主とし、マリアナ・カロリナの諸島には支那人・マライ人・イスパニア人の血統を交ふるもの多く、殊にイスパニア人とは交通久しきを以て、風俗は大抵野蠻の域を脱し、言語も亦イスパニア語を用ふ。  
**ジルベルト諸島**は、赤道線上に跨り、東徑百七十度より百八十度までの間に散在し、全部イギリスに屬す。  
**マルシャル諸島**は、ジルベルト諸島の西北に位し、全部ドイ

二盗賊の  
義にして  
マガリッ  
エンスの  
発見せし  
とき土人  
集り來り  
て盗み  
をせし  
にによる

ツの所領たり。  
カロリナ諸島は、マルシャル諸島の西方に散在す。もと、イス  
パニアの領地なりしが、ドイツに賣渡せり。  
マリアナ諸島は、またラドロナ諸島と稱し、カロリナ諸島  
の北方に位す。もと、イスパニアの領地なりしが、ドイツに賣  
渡せり。されど、諸島中の最大島なるグアム島は、イスパニ  
ア・アメリカ合衆國戦争の結果、アメリカ合衆國これを占領  
し、今は、その海軍の貯炭所たり。サンフランシスコよりフ  
リピン諸島に通ずる海底電線はこの地を經由せり。諸島  
の北方五百海里に、我が小笠原群島あり。

ポリネシア本部群島

三多島地  
方の義

ポリネシア本部群島は、オーストラリアの東より、北の方、大

二マウナ  
ハウイ  
の山の  
義

平洋の一面に散布せる諸島にして、トンガ諸島・サモア諸島  
ソシエテ諸島・ハワイ諸島・ニージーランド植民地をその主  
島とす。

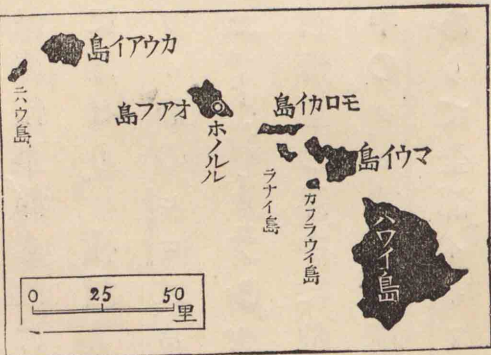
この諸島の地體も、また大抵火山・珊瑚の兩質よりなり、ハ  
ワイ諸島には、マウナ、ケア・マウナ、ロア等の海拔一萬四千尺に  
近き活火山あり。大部熱帯に位すれども、夏期は海風よく  
炎熱を殺ぎ、夜陰殊に冷涼なり。土人は、黒人種の一派なる  
ポリネシア族多く、大抵ヨーロッパ人の感化を受け、キリスト  
教を奉ずるものあり。

トンガ諸島は、又フレンドリ諸島といふ。フジー諸島の  
東に位する土人の王國にして、西曆千九百一年以來、イギリ  
スの保護を受く、ユブラ・甘蔗は本島主要の輸出たり。

**サモア諸島**は、一にナビゲトル諸島といひ、トンガ諸島の東北に位す。ウボル島のアピアは海港にして、イギリス人ドイツ人多く在留し、コブラ綿珈琲を輸出す。この諸島はもと獨立の王國なりしが、西曆千九百年このかた、西北の大部はドイツに、東南部はアメリカ合衆國に分屬す。

**ソシエテ諸島**は、トンガ諸島の東に位し、東北なるマルキーズ及びバウモツ即ちロー諸島と共にフランスに屬し、眞珠・コブラ綿の輸出あり。諸島の中、タヒチ島は最も大きく、また風色の佳絶なると、氣候の溫和なるとにより、南洋の樂園と稱せらる。

**ハワイ諸島**は、またサンドウチ諸島といふ。その位置、北緯十九度より二十三度、西經百五十度より百七十度までの間



島 諸 イ ワ ハ

に散在し、ハワイ・マウイ・カフライ・ウイ・ラナイ・モロカイ・オアフ・カウアイ・ニハウ等を始め、大小二十餘の島嶼よりなり、面積千百餘方里、人口十五萬餘あり。國體はもと立憲君主政治なりしが、西曆千八百九十四年共和政體となり、千八百九十八年終にアメリカ合衆國に合併せり。國內山岳に富み、平地は、土肥え、甘蔗・米・珈琲・綿等の耕作に適し、また牛・羊の牧養盛んに行はれ、殊に砂糖は主要の輸出品にして、製糖所百以上を有し、アメリカ合衆國との取引最も盛んなり。

ホノルルは全島の首都にして、オアフ島の南岸に臨み、市況

繁昌を極め、港内は水深く、大船の出入自在にして、南洋屈指の貿易場たり、我が國より絹手巾・陶器・海産物等を輸入し、我が總領事館も設けられ、國人の出稼するもの凡て六萬以上に達せり。横濱よりここまで航程三千四百海里あり。ハワイ島のヒロは、ホノルルにつき、第二の貿易港なり。

**ニウージーランド植民地**は、オーストラリアの東南、千二百海里の洋中に位するニウージーランド島及びその東北洋中のクック諸島を稱し、面積一萬七千餘方里、人口凡そ八十萬ありて、全部イギリスに屬す。

ニウージーランド島は北島・中島及び南島即ちステワルド島を主島とし、その地形は東北より西南に亘り、内地は山岳に富み、高きものは一萬二千尺以上に達し、中島の東部にはカ

ンタベリーの平原ありて、位置・地勢より氣候・風土に至るまで、一に我が國に似たるを以て、又「南洋の小日本」と稱せらる。物産は金羊毛を主とし、カンタベリーの平原また殊に農産に富む。貿易はイギリスとの取引最も盛んなり。オークランド・ウェリントンMAORIは北島に、キリストチャーチ・ダニデンは中島にありて、共に貿易盛んに行はれ、ウェリントンは植民地政廳所在の地たり、この島は、ポリネシア本部より移りし、マオリと稱する土人の本土なりしが、今は、その族僅に四萬を餘せるのみにて、移住民はイギリス人の子孫最も多し。政治は、本國派遣の總督、政務を行ひ、兩院制の立法議會あり。



地名人名原字表

最新外國地理教科書上卷終

地名人名原字表

ア

安城	An-Syöng
愛琿	Aigun
安徽省	An-Hui Sheng
安慶	An-Ching
アジア	Asia
アジア、ロシア	Asiatic Russia
アジア、トルコ	Asiatic Turkey
アラビア	Arabia
アフガニスタン	Afghanistan
アレウト諸島	Aleutian Is.
アルタイ	Altai
アラル海	Aral Sea
アルメニア	Armenia
アナトリア	Anatolia
アムル	Amur
アサム	Assam
アム河	Amu Darja (oxus)
アニバ	Aniva
アンチ、リバノン	Anti Libanon
アンゴラ	Angora
アデン	Aden
アワ	Ava
アユチア	Ayuthia
アンナム	Annam
アデレード	Adelaide
アピア	Apia

イ

殷山	Eun-San
殷栗	Eul-Lyul
蔚山	Ul-San
陰山	Yin-Shan

地名人名原字表

沿海州  
エーゲ海

Maritime  
Aegean Sea

オ

鴨綠江  
温州  
オマーン  
オホーツク  
オブ  
オムスク  
オーストラリア  
オーストラリア大灣

Am-Nok-Gang  
Wen-Chau  
Oman  
Okhotsk  
Ob  
Omsk  
Australia  
Great Australian  
Bight

オーストラリア、アルプ山脈  
オークランド  
オーウェン、スタンリー山脈  
オアフ島

Australian Alps  
Auckland  
Owen Stanley  
Oahu

カ

咸鏡道  
閑山島  
漢羅山  
漢江  
价川  
漢城  
海州  
漢陽  
牙山  
咸興  
開城  
河南  
甘肅  
廣東  
廣西  
華山  
開封  
漢口

Ham-Gyöng  
Han-San-Do  
Hal-La-San  
Han-Gang  
Kai-Chhyön  
Han-Syöng  
Hai-Jyu  
Han-Yang  
A-San  
Ham-Heung  
Hai-Syöng  
Ho-Nan  
Kan-Su  
Canton(Kwang-tung)  
Kwang-Si  
Hua-Shan  
Kai-Feng  
Han-Kau

渭水  
威海衛  
インド洋  
イラン  
インド  
インド支那  
イェニセイ  
イラワヂ河  
インドス河  
イリ  
イルクツク  
イエルサレム  
イスパハン  
イロイロ

Wei-Shui  
Wei-Hai-Wei  
Indian Ocean  
Iran  
India  
Indo China.  
Yenisei  
Irawadi  
Indus  
Ili  
Irkutsk  
Jerusalem  
Ispahan  
Iloilo

ウ

鬱陵島  
雲南  
ウラル  
ウラヂボストク  
ウルガ  
ウルムチ  
ウヂンスク  
ウスリ  
ウェスト、オーストラリア  
ウェリントン  
ウボル島

Ul-Leung-Do  
Yun-Nan  
Ural  
Vladivostok  
Urga  
Urumtsi  
Udinsk  
Ussuri  
West Australia  
Wellington  
Upolu

エ

榮山江  
永興  
烟臺  
榮城  
營口  
エルブールズ  
エベレスト峯  
エウフラト河

Yong-San-Gang  
Yong-Heung  
Yen-Tai  
Jung-Cheng  
Ying-Kau  
Elburz  
Everest  
Euphrates

カウアイ島

Kauai

キ

巨濟島

Kō-Chyōi-Do

巨文島

Kō-Mun-Do

錦江

Keum-Gang

龜城

Kui-Jyu

鏡城

Kyōng-Syōng

貴州

Kwei-Chau

吉林

Girin

金沙江

Chin-Sha-Kiang

貴陽

Kwei-Yang

金州

Chin-Chau

宜昌

I-chang

九龍

Kiu-Lung

玉門關

Yu-Men-Kuan

九江

Kiu-Kiang

キプロス島

Kjakhata

キリスト

Cyprus (Kypros)

キーロン

Christ

キリストチャーチ

Geelong

北島

Christchurh

North Island

ク

群山

Kun-San

クルヂ

Kuldj

クラスノヤルスク

Krasnojarsk

クール河

Kur

クルド

Kurdistan (Kurds)

クラカタウ島

Krakatau

クインズランド

Queensland

グレート、バリアー、リーフ

Great Barrier Reef

クック

Cook

クールガルヂ

Coolgardie

グアム

Guam

開平

Kai-Ping

海城

Hai-Cheng

蓋平

Kai-Ping

海洋島

Hai-Yang-Tau

贛江

Kan-Kiang

岳州

Yo-Chau

厦門

Amoy (Hsia-men)

海南島

Hai-Nan-Tau

嘉峪關

Chia-Yu-Kuan

咸陽

Hsien-Yang

回疆

Hui-Chiang

漢中

Han-Chung

カスピ海

Caspian Sea

カフカズ

Caucasus (Kavkas)

海峽植民地

Streets Settlements

カムチャツカ

Kamtchatka

カラフト

Sakhalin

ガウリサンカル峯

Gaurisankar

カンチンヂェンガ峯

Kanchinjanga

ガンガ河

Ganges (Ganga)

カラコルム山脈

Karakorum

カシガル

Kashgar

外バイカル

Transbaikal

外カスピ

Trans-Caspian

外カウカシア

Transcaucasia

カブール

Kabul

カンダハル

Kandahar

カルカッタ

Calcutta

カシミル

Kashmir

カンヂー

Candy

カンボヂ

Cambodja

カビテ

Cavite

カーペンタリア灣

Carpentaria

カンタベリー

Canterbury

カイゼル、ウィルヘルムランド

Kaiser Wilhelmland

カロリナ諸島

Caroline Is.

カフラウイ島

Kahului

江寧  
 廣州  
 杭州  
 吳淞  
 興京  
 黃浦口  
 紅海  
 ゴビ  
 ココ、ノール  
 コザック  
 コルサコフ  
 ゴール  
 コロマンデル  
 コロンボ  
 後インド半島  
 コラト  
 コチ支那

Kiang-Ning  
 Kwang-Chau  
 Hang-Chau  
 Wu-Sung  
 Hsing-Ching  
 Huang-Pu-Kau  
 Red Sea  
 Gobi  
 Koko Nor  
 Cossack  
 Korsakova  
 Ghor  
 Coromandel  
 Colombo  
 Further India  
 Korat  
 Cochin China

サ

濟物浦  
 濟州島  
 三南  
 載寧  
 西京  
 山東(省)  
 山西(、)  
 濟南  
 山海關  
 三姓  
 齊々哈爾  
 三都澳  
 三水  
 サルウイン河  
 サンポー河  
 サマルカンド  
 サモス島

Che-Mul-Pho  
 Chyöi-Jyu-Do  
 Sam-Nam  
 Chai-Yöng  
 Syö-Kyöng  
 Shan-Tung  
 Shan-Si  
 Chi-Nan  
 Shan-Hai-Kuan  
 San-Sin  
 Tchitchikhar  
 Saz-To-Ao  
 San-Shui  
 Salwin  
 Sampo  
 Samarkand  
 Samos

ケ

京畿道  
 慶尙  
 慶興  
 迎日灣  
 慶州  
 京城  
 月尾島  
 元山  
 桂林  
 瓊州  
 ケタ  
 ケラット

Kyöng-Geui  
 Kyöng-Syang  
 Kyöng-Heung  
 Yong-Il-Man  
 Kyöng-Jyu  
 Seoul (Soul, syoul)  
 Uöl-Mi-Do  
 Gen-San (Uön-san)  
 Kuei-Lin  
 Kiung-Chau  
 Quetta  
 Kelat

コ

江原道  
 黃海  
 江華島  
 甲山  
 公州  
 光州  
 金剛山  
 黃州  
 江蘇省  
 江西  
 湖北  
 湖南  
 黑龍江  
 膠州  
 崑崙山脈  
 興安  
 黃河  
 恒山  
 嵩山  
 衡山  
 梧州

Kang-Uön  
 Yellow Sea (Hoang-hai)  
 Kang-Hoa-Do  
 Kap-San  
 Kong-Jyu  
 Koang-Jyu  
 Keum-Gang-San  
 Hoang-Jyu  
 Kiang-Su  
 Kiang-Si  
 Hu-Peh  
 Hu-Nan  
 Hei-Lung-Kiang  
 Chiao-Chau  
 Kuen-Lun  
 Hsing-An  
 Huang-Ho  
 Heng-Shan  
 Sung-Shan  
 Heng-Shan  
 Wu-Chau

ジャクソン灣  
新ヘブライツ諸島  
新カレドニア諸島  
新ギネア島  
ジルベルト諸島

Jackson  
New Hebrides  
New Caledonia  
New Guinea  
Gilbert

ス

水原  
スエズ  
スタノボイ山脈  
スレイマン山脈  
スパイス島  
ストレチェンスク  
スマイルナ  
スリナガル  
スマトラ  
スル諸島  
スンパワ  
スンバ島  
ステワルド島  
スバ  
スンダ  
スラバヤ

Mul-Uön  
Suez  
Stanovoi  
Sulaiman  
Spice  
Stretensk  
Smyrna  
Srinagar  
Sumatra  
Sulu (Soeloe)  
Soembawa  
Soemba (Sandal Wood Is.)  
Steward  
Suva  
Soenda  
Soerabaja

セ

全羅(道)  
清川江  
成歡  
全州  
絶影島  
青海  
浙江(省)  
盛京  
仙霞嶺  
西江  
西寧  
成都

Chyöl-La  
Chhyöng-Chhyön-Gang  
Syöng-Hoan  
Chyön-Jyu  
Chyöl-Lyöng-Do  
Ching-Hai  
Cheh-Kiang  
Shing-King  
Hsien-Hsia-Ling  
Hsi-Kiang  
Hsi-Ning  
Cheng-Tu

サイゴン  
ツラワク  
サウス、オーストラリア  
サウス、ポート  
サモア諸島  
サンドウィチ諸島

Saigon  
Sarawak  
South Australia  
South Port  
Samoa  
Sandwich

シ

稷山  
城津  
秋風嶺  
春川  
新疆(省)  
四川(,,)  
秦山  
松花江  
珠江  
上海  
紫竹林  
秦皇島  
沙市  
肅州  
シベリア  
シム  
小アジア  
シル河  
ジャバ  
シリア  
シナイ  
死海  
シャト、エル、アラブ  
ユダヤ人  
シアンデルナゴル  
シンガポール  
小スンダ諸島  
シドニー

Chik-San  
Syöng-Jin  
Chhyun-Phung-Nyong  
Chhyun-Chhöyn  
Hsin-Chiang  
Sze-Chwan  
Chin-Shan  
Sungari (Sung-Chiang-Kiang)  
Chu-Kiang  
Shang-Hai  
Tzu-Chu-Lin  
Chin-Huang-Tau  
Sha-Shih  
Su-Chau  
Siberia  
Siam  
Asia Minor  
Syr Darja (Jaxartes)  
Java  
Syria  
Sinai  
Dead Sea  
Shat el Arab  
Jews  
Chandernagor  
Singapore  
Lesser Soenda  
Sydney

タスマニア  
タスマン  
タウンズビル  
ダニデン  
タヒチ島

Tasmania  
Tasman  
Townsville  
Dunedin  
Tabiti

チ

朝鮮  
忠清(道)  
珍島  
長白山脈  
鎮南浦  
直隸(省)  
長沙  
鎮江  
長江  
張家口  
長安  
重慶  
芝罘  
中央アジア  
チェリウスキン岬  
西藏  
チグリス河  
チンギスハン  
チェリアビンスク  
チタ  
チムル  
チフリス  
ヂウ  
チャンタブン  
チモル島

Chyo-Syōn  
Chhyung-Chhyōng  
Chin-Do  
Chyang-Paik  
Chin-Nam-Pho  
Chih-Li  
Chang-Sha  
Chin-Kiang  
Chang-Kiang  
Khalghan (Chang-Chia-Kan)  
Chang-An  
Chung-King  
Chih-Fu  
Central Asia  
Chelyuskin  
Tibet  
Tigris  
Tehinghis Khan  
Chelyabiusk  
Tehita  
Timur  
Tiflis  
Diu  
Chantabun  
Timor

ツ

圖們江

Tu-Man-Gang

西安  
西湖  
汕頭  
セイロン  
ゼイヤ河  
セラシゴル  
セレベス島  
セブ

Hsi-An  
Hsi-Ho  
Swa-Tao (Shau-Tou)  
Ceylon  
Zeiya  
Selangor  
Celebes  
Cebu

ソ

蘇州  
葱嶺(ベルル山)  
草原地方  
ソロモン諸島  
ソシエテ諸島

Su-Chau  
Belur Tagh  
Steppes  
Solomon  
Society (Societe)

タ

大韓  
大同江  
大邱  
端川  
大清  
大連灣  
大度嶺  
泰山  
太原  
大平洋  
タイミル半島  
ダルダネル海峽  
タリム河  
ダルニー  
タシケント  
ダマスク  
タブリーズ  
ダマン  
大スンダ諸島  
大洋洲

Tai-Han  
Tai-Dong-Gang  
Tai-Ku  
Dam-Chhōyon  
Ta-Ching  
Ta-Lien-Wan  
Ta-yu-Ling  
Tai-Shan  
Tai-Yuan  
Pacific Ocean  
Taimyr  
Dardanelles  
Tarim  
Dalnii  
Tashkent  
Damascus  
Tabriz  
Daman  
Greater Soenda  
Oceania

ニ

仁川	In-Chhyön
牛莊	Niu-Chwang
ニコリスク	Nikolsk
ニコライエフスク	Nikolaievsk
ニヌア	Nineveh (Ninua)
西ガッツ山脈	Western Ghats
ニッ、ジーランド	New Zealand
ニッ、サウス ウェールズ	New South Wales
ニハウ	Nihau

ヌ

ヌメア	Noumea
-----	--------

ネ

寧古塔	Ninguta
寧波	Ning-Po
ネパール	Nepal
ネルチンスク	Nertchinsk
ネヂド	Nedjd
ネグリ、センピラン	Negri-Sembilan

ハ

馬山浦	Ma-San-Pho
白河	Pai-Ho
哈爾濱	Ha-Erh-Pin
鄱陽湖	Po-Yang-Hu
馬尾	Ma-Wei
萬里長城	Wan-Li-Chang-Cheng
賣買城	Mai-Mai-Cheng
バルマ	Burma
ババ岬	Baba
バミル	Pamir
バイカル湖	Baikal
バルハシ湖	Balkhash
ハラホリム	Karahorum (Khara-Kholim)

テ

鐵峴	Thyöl-Hyön
鐵嶺	Chhyöl-Lyöng
定州	Työng-Jyu
天山	Tien-Shan
天津	Tien-Ching
デカン	Deccan
デスネフ岬	Dezhneff
テヘラン	Teheran
デリー	Delhi

ト

徳源灣	Tök-Uön-Man
東萊	Töng-Nai
東海	Tung-Hai
怒江	Nu-Kiang
東江	Tung-Kiang
塘沽	Tang-Ku
洞庭湖	Tung-Ting-Ho
東岬	East Cape
トボルスク	Tobolsk
トムスク	Tomsk
トルキスタン	Turkestan
トンキン	Tonquin
トレス海峡	Torres
トンガ	Tonga

ナ

南嶺	Nan-Ling
南昌	Nan-Chang
南京	Nan-King
南寧	Nan-Ning
内カウカシア	Cis-Caucasia
ナビゲトル諸島	Navigator



フ

釜山浦  
 文川  
 福建(省)  
 伏牛山脈  
 武昌  
 福州  
 蕪湖  
 ブータン  
 プラマプトラ河  
 フィリピン諸島  
 ブラゴベシチェンスク  
 フェルガナ  
 フェニキア  
 プノンペン  
 ブリツン島  
 フロレス諸島  
 ブルネイ  
 フィリボ  
 フィジー諸島  
 ブハラ  
 ブリスベーン  
 フリーマントル

Fu-San-Pho  
 Mun-Chhyöng  
 Fuh-Kien  
 Fu-Nin  
 Wu-Chang  
 Fu-Chau  
 Wu-Hu  
 Bhutan  
 Brahmaputra  
 Philippine  
 Blagovestinsk  
 Ferghana  
 Phoenicia  
 Pnom Penh  
 Billiton (Blitoeng)  
 Flores  
 Brunei  
 Philip (Filippo)  
 Fiji  
 Bokhara  
 Brisbane  
 Freemantle

ヘ

平安道  
 平壤  
 北京  
 ペルシア  
 ペルチスタン  
 ベーリング  
 ベンガル  
 ベルホヤンスク  
 ペテロ大帝  
 ヘラット  
 ベイルト

Phyöng-An  
 Phyöng-Yang  
 Peking  
 Persia  
 Baluchistan  
 Behring  
 Bengal  
 Verkhojansk  
 Peter the Great  
 Herat  
 Beirut

ハバロフスク  
 バクー  
 バタム  
 バグダード  
 バビロン  
 バレスチナ  
 バトナ  
 バタビア  
 バクナム  
 バモ  
 バハン  
 バンコク  
 ハノイ  
 ハイフォン  
 バブア島  
 バンカ島  
 バシ海峡  
 バナイ島  
 ハーベ-灣  
 バース  
 バス海峡  
 ハワイ諸島  
 バウモツ諸島

Khabarovsk  
 Baku  
 Batum  
 Bagdad  
 Babylon  
 Palestine  
 Patna  
 Batavia  
 Paknam  
 Bhamo  
 Pahang  
 Bangkok  
 Hanoi  
 Hai-Phong  
 Papua  
 Banka  
 Bashe  
 Panay  
 Hervey  
 Perth  
 Bass  
 Hawai  
 Paumoto

ヒ

苗嶺  
 ヒンヅークシ山脈  
 ヒマラヤ山脈  
 ビクトリア  
 ヒバ  
 ヒベル峠  
 ビンチア山脈  
 東ガッツ山脈  
 ビナン  
 ビスマルク諸島  
 ヒロ

Miao-Ling  
 Hindukush  
 Himalaya  
 Victoria  
 Khiva  
 Khaibar Pa  
 Vindhya  
 Eastern Ghats  
 Pinang  
 Bismark  
 Hilo

マガリアエンス	Magellan (Magalhães)
マンカッサル海峡	Macassar (Mang-Kassar)
マルレー河	Murray
マーチソン	Marchison
マルシャル諸島	Marshall
マリアナ諸島	Marianne
マウナ、ケア	Mauna Kea
マウナ、ロア	Mauna Loa
マルキーズ諸島	Marquesas Is.
マウイ島	Maui

ミ

岷嶺	Min-Ling
ミカイロボ	Mikhailovo
ミンダナオ島	Mindanao
ミクロネシア	Micronesia

ム

ムハメッド	Muhammed
ムスカット	Muskat

メ

メコン河	Mekong
メナム河	Menam
メルブ	Merv
メソポタミア	Mesopotamia
メデナ	Medina
メッカ	Mecca
メシエッド	Meshed
メルボルン	Melbourne
メラネシア	Melanesia

モ

木浦	Mok-Pho
蒙自	Mentze
蒙古	Mongolia
モスル	Mosul

ベテレヘム	Bethlehem
ペリム島	Perim
ベナレス	Benares
ペラ	Perak

ホ

北青	Peuk-Chhyōng
豊島	Phung-Do
渤海	Po-Hai
北嶺	Pei-Ling
鳳凰城	Feng-Huang-Cheng
奉天	Mukden
北海	Pak-Hoi
保定	Pao-Ting
北極洋	Arctic Ocean
ボスボロス海峡	Bosphorus (Bosporos)
ボルネオ	Borneo
香港	Hong-Kong-Cheng
ボタラ	Botala
ボンベ	Bombay
ボーラン峠	Bolan Pass
ボンヂシュリー	Pondicherry
ポリネシア	Polynesia
ホバート	Hobart
ホノルル	Honolulu

マ

澳門	Macao (Ao-Men)
マライ	Malay
マラカ	Malacca (Malaka)
マルモラ海	Marmora
滿洲	Manchuria
マラバル海岸	Malabar
マドラス	Madras
マエ	Mahe
マンダレ	Mandalay
マニラ	Manila

旅順  
遼陽  
龍州  
リバノン

Lu-Shun  
Liao-Yang  
Lung-Chau  
Libanon

ル

ルソン

Luzon

レ

レナ河

Lena

ロ

ロマニア岬  
ロップノル  
ロンボク島  
ロアヨーテ  
ロ-諸島

Romania  
Lop Nor  
Lombok  
Loyalty (Loyaute)  
Low Archipelago

モーゼ  
モルカ諸島  
木曜島  
モロカイ島

Moses  
Molucca (Moluca)  
Thursday Island  
Molokai

ヤ

ヤブロノイ山脈  
ヤナ河  
ヤルカンド  
ヤクツク  
ヤナオン  
ヤーラ河

Yablonoi  
Yana  
Yarkand  
Yakutsk  
Yanaon  
Yarra

ユ

ユダヤ  
ユエ

Judaea  
Hue

ヨ

楊子江  
ヨーク半島

Yang-Tzu-Kiang  
York

ラ

洛東江  
瀾滄江  
蘭州  
洛陽  
雷州  
ラッサ  
ラングン  
ラドロナ諸島  
ラナイ島

Nak-Tong-Gang  
Lan-Tsang-Kiang  
Lan-Chau  
Lo-Yang  
Lei-Chau  
Lassa  
Rangoon  
Ladrone  
Lanai

リ

龍潭  
遼東  
龍川江  
遼河

Yong-Dam  
Liao-Tung  
Lung-Chuan-Kiang  
Liao-Ho

明明明明明明明  
 治治治治治治治  
 三三三三三三三  
 十十十十十十十  
 七七七六六六五  
 年年年年年年年  
 三三三十一六六二  
 月月月月月月月  
 廿九六廿二五二  
 日日日日日日日  
 第訂印訂改訂印初  
 五正正正正  
 四版版版版  
 版發發發發  
 發行刷行刷行刷



發行所

東京市日本橋區大傳  
 馬町二丁目十六番地

內田老鶴圃

(電話浪花千三百三十五番)

編者 岩崎重三  
 編者 池田鹿之助  
 發行者 內田淺  
 印刷者 青木弘  
 印刷所

岩崎重三  
 池田鹿之助  
 內田淺  
 青木弘  
 東京市牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地  
 株式會社 秀英舍第一工場  
 東京市牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地

最新外國地理上卷  
 定價金四十五錢

文學士吉國藤吉先生編著  
文學士和田鼎先生校訂  
○訂改 西 洋 史

○定價金九拾錢 郵税金拾貳錢 全一冊

文學士吉國藤吉先生  
辻安彌先生共編  
○西 洋 史 地 圖

○定價金四拾五錢 郵税金六錢 全一冊

文學士秋月胤繼先生著  
○正 東 洋 史

○定價金七拾錢 郵税金拾錢 全一冊

文學士笹川種郎先生編  
○國 史 要

○定價金四拾五錢 郵税金六錢 全二冊

文學士本多淺治郎先生著  
○新 日 本 歷 史 教 科 書

○上卷 定價金四拾五錢 郵税金八錢  
○下卷 定價金六拾錢 郵税金拾錢 全二冊

文學士本多淺治郎先生編  
○新 編 日 本 歷 史

○上卷 定價金四拾五錢 郵税金八錢  
○下卷 定價金六拾五錢 郵税金拾錢 全二冊

理學士岩崎重三先生  
文學士春日圓城先生  
○新 日 本 地 理 教 科 書

同附圖 ○定價金五拾五錢 郵税金八錢  
○定價金四拾錢 郵税金四錢 全一冊

理學士岩崎重三先生  
池田鹿之助先生共編  
○最 外 國 地 理 教 科 書

○改訂 ○上卷 定價金四拾五錢 郵税金八錢  
○下卷 定價金四拾錢 郵税金四錢 全二冊

理學士脇水鐵五郎先生  
理學士岩崎重三先生選  
○訂 改 新 式 地 文 學

○定價金七拾錢 郵税金拾錢 全一冊

理學士脇水鐵五郎先生著  
○新 式 鑛 物 學

○定價金五拾錢 郵税金八錢 全一冊

理學士脇水鐵五郎先生新著  
○中 學 鑛 物 界

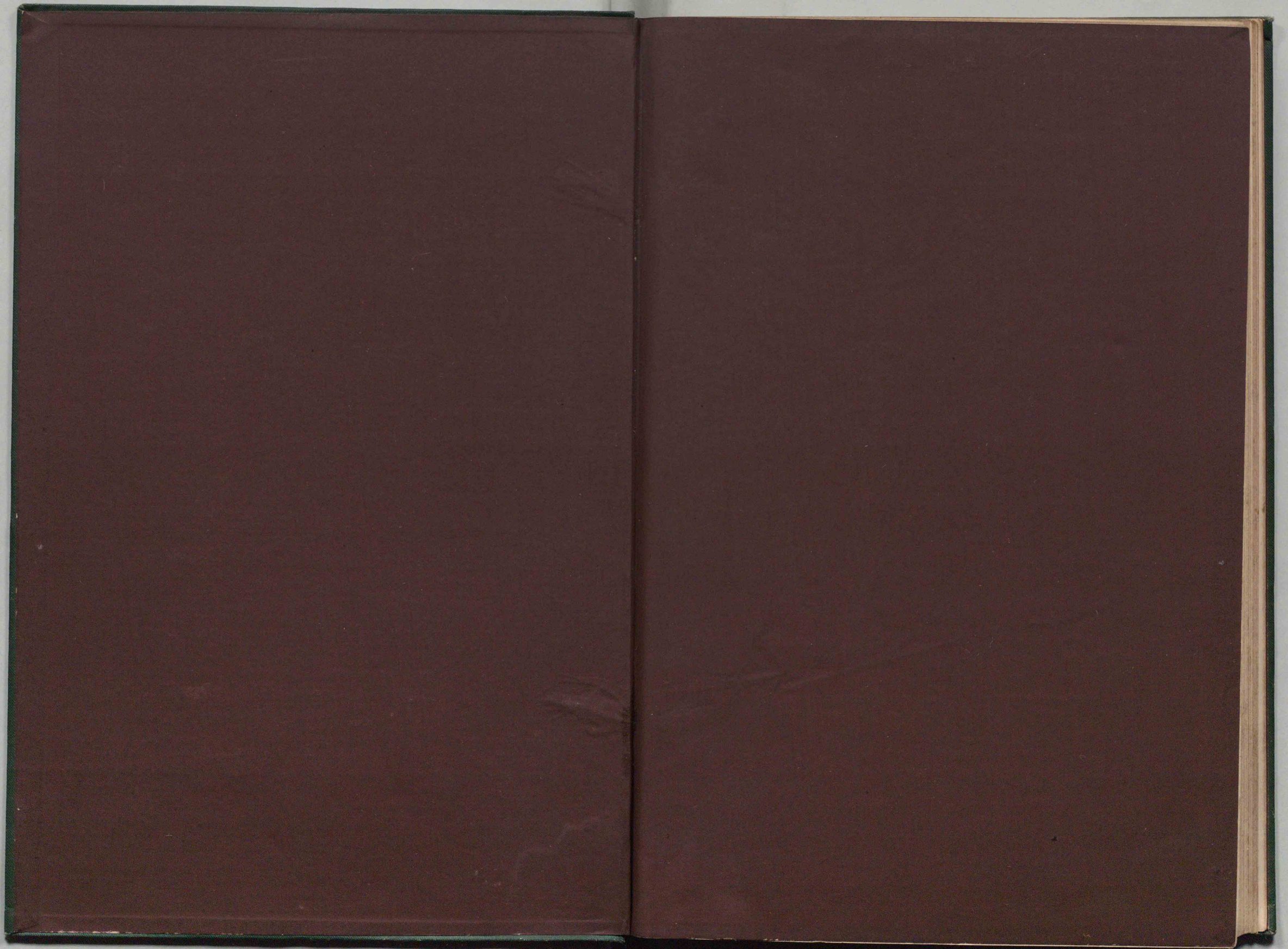
○定價金五拾錢 郵税金八錢 全一冊

理學博士本多光太郎先生新著  
○物 理 學 實 驗 法

○近 刊 全一冊

理學士岩崎重三先生著  
○用 鑛 物 岩 石 鑑 定 及 吹 管 分 析 表

○增補訂正 ○四六判 近刊 全一冊



第二七九号

文庫  
04  
164

広島大学図書  
2500300164  
